

令和3年度使用中学校用教科用図書

## 調査資料

国語・書写・社会（地理）・社会（歴史）・社会（公民）  
社会（地図）・数学・理科・音楽（一般）・音楽（器楽合奏）  
美術・技術家庭（技術）・技術家庭（家庭）・英語・道徳

第14採択地区教科用図書採択協議会



教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 教 研	教研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社学研教育みらい
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社



項目	書名 2 新しい国語 東書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「広がる言葉」を巻末の「てびき」に設定し、資料の「言葉を広げよう」との関連付けを図ることで、語彙の拡充が図れるよう工夫されている。</li> <li>○巻末の「論理的な言葉の力」において、学年ごとに「情報の分類や比較」「情報の整理」「情報の多面的な捉え方」を取り上げている。身近な例を取り上げて、「情報と情報の関係性」や「情報を活用する力」を身に付けられるような工夫をしている。</li> <li>○見開き教材の資料で古文をわかりやすく理解させるための工夫をしたり、巻末の資料を活用しながら、古典に親しませるための工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の冒頭に、漫画形式の「学びの扉」や「言葉の力」を配置して、その教材で身に付けたい力を明示し、巻末の「学びを支える言葉の力」と関連させながら言語活動の充実が図れるようにしている。</li> <li>○教材の冒頭に、「目標」「問いかけ」などを示し、末尾で記述式の「振り返り」が設けられていることで、課題解決的な学習の定着・思考ができるように工夫している。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科で身に付ける言葉の力を3年間系統的に学べるようにするために、巻末に「『言葉の力』一覧」を取り上げて示している。</li> <li>○学年の巻頭見返しや各単元冒頭の扉に、「四季折々の詩歌」「扉の詩」が掲載され、優れた表現、美しく豊かな日本語に触れる機会が設けられている。</li> </ul> <p>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読書案内」を「読むこと」の領域ごとに配置して、学習した教材と読み比べられるような本の内容について紹介している。</li> <li>○興味・関心の幅を広げ、将来に生きてはたらく読書活動ができるようにするために、各学年に「図書館調べやポップ作り」、「ビブリオバトルやレポート」、「読書会」などの教材を取り入れている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古典分野の内容に関する折り込みを用いるなどして、古典作品が色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版とともに効果的に紹介されている。</li> <li>○ウェブサイト上で教科書と連動したデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるように、教材内容に応じて「Dマーク」が付してある。</li> <li>○各教材と領域の関係が、色別に掲載されていて、</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独自の明朝体・教科書体の使用、大事な箇所は囲みやゴシック体を使用している。</li> <li>○各行末には、行番号を表すための数字と中黒の点が付されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の教科書において、小学校の教科書に掲載されていた作者の作品を扱ったり、既習事項と当該学年の学習内容を巻頭で説明したりして、見通しをもった系統的な学習ができる構成になっている。</li> <li>○「学びの扉」で課題に気付き、「学びを支える言葉の力」で基礎的な力を鍛え、「振り返り」でまとめをしつつ、「言葉の力」で生かすという構成になっている。</li> </ul>

書名  
項目

# 現代の国語

三省堂

<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;  ○語彙の拡充を図るために、「読むこと」の教材ごとに「学びの道しるべ」で「語彙を豊かに」を設定したり、資料の中で「辞典を活用する」などを掲載したりして、定着を図っている。  ○「情報」の分野について、「思考の方法」「情報を関係づける」を設定し、自己の考えが深められる内容になっている。また、全学年共通して「情報を活用する」（資料編）を設定し、情報の見つけ方や著作権についてなど、情報リテラシーが高められるような工夫がなされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;  ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材に示された「学習のポイント」「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫を凝らして、汎用的な力が身に付けられるようになっている。  ○「読むこと」と「書くこと」を関連付けながら、幅広い思考ができるように工夫されている。また、「読み方を学ぼう」を設定し、「読むこと」の学習内容について図解により、見やすく、わかりやすく確認ができるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;  ○教材ごとに設定された「学びの道しるべ」によって、生徒に見通しが持たせられるとともに、学びの成果が実感できるような構成になっている。  ○対話や考えの共有など、協同的な言語活動の場を適切に設け、仲間とともに学習の達成感を得て、学ぶ意欲が高められるように工夫されている。</p> <p>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;  ○「読むこと」の単元において「私の本棚」を配置している。また、読書単元の「読書の広場」や資料編にある「日本文学名作集」や「私の読書体験」を掲載して、読書を通して人生を豊かにしようとする態度が養えるようになっている。  ○生徒の興味・関心の幅を広げられるようにするために、学年ごとに「ブッククラブ」（1年）、「ビブリオバトル」（2年）、「ブックトーク」（3年）に取り組み、実際の社会生活に生きてはたらく読書活動が取り入れられるようになっている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○巻頭の「この教科書の使い方」において、「見通し」から「振り返り」までの学習過程が示されており、主体的・対話的で深い学びの実践ができるようになっている。  ○「情報を活用する」「古典芸能に親しむ」「社会生活に生かす」「参考資料」の4つの系統にまとめられていて、様々な場面で活用できる実践的知識や具体的な学び方を掲載している。  ○「古典教材」と「読書の広場」にはQRコードがあり、教科書と連動したコンテンツの閲覧・活用ができるようになっている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○特別支援教育、カラーユニバーサルデザインの観点から、全体的にわかりやすく見やすい書体や色・レイアウトとなっている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○「読み方を学ぼう」では、文章を正確に読み解き、深く味わうための「技」や「こつ」、その教材で身に付けたい力がわかりやすくまとめられていて、主体的に文章を読み解く力、物事を考える力が身に付けられるように工夫されている。  ○各教材において、冒頭に学習目標を示し、末尾に学習を振り返り深める活動・ポイントが示されていて、見通しを持って取り組めるように工夫されている。</p>

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">伝え合う言葉 中学国語</h1> <span style="float: right;">教出</span>
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「言葉の地図」、各教材末にある「みちしるべ」の中の「この教材で学ぶ言葉」「学びナビ」巻末折込みの「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」等で、語彙の定着と情報の扱い方などが身に付くように工夫されている。</li> <li>○言語教材では、単元内に「言葉の小窓」「文法の小窓」を配し、日常の言語生活から言葉の存在や機能に気づく言語活動への導入を図っている。そこから巻末の解説教材に進むことによって、詳しく体系的な学習ができる構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の冒頭に「学びナビ」を設定し、その教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力を働かせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を可視化・明確化している。</li> <li>○教材の冒頭に「目標」を示し、「学習活動の流れ」で学習の過程と重点を把握しながら、教材末尾の「振り返り」で自らの学習を認識することにより、学習の深まりと次に学習への意欲付けが図れるよう、工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の目標と振り返り（「みちしるべ」との連動も含めて）が明確に示され、学習の見通しがもてるよう工夫されている。</li> <li>○各学年に設定された「学びのチャレンジ」では、高校入試にも出題されている「思考力問題」も視野に入れ、多様なテキストを読み、解釈し、自分の考えを書く形式の問題を掲載している。</li> </ul> <p>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材と関連した図書を「広がる本の世界」としてまとめて紹介している。それによって、教材の理解の深化、自分の考えの広がりや深まり、読書活動の充実を図っている。</li> <li>○1年で「本の帯やポップ作り」、2年で「読書レポート」、3年で「ビブリオバトル・読書記録」に取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の見通しとともに身に付けたい言葉の力をSDGsの視点との関わりが分かるように、巻頭の「言葉の地図」において具体的に示されている。</li> <li>○言葉と文法（「解説編」）や「言葉の自習室」を巻末に掲載し、各領域における補充学習が効果的にできるようにしている。</li> <li>○教材によっては「まなびリンクマーク」のマークが付しており、効果的に活用できる資料がウェブサイトで見つけ、利用が可能になっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階を踏まえ、1年生と2・3年生とでは基本の字詰め・行数を変えるなどの配慮がなされているとともに、各行末には数字と中黒の点が付されている。</li> <li>○カラーユニバーサルデザインに配慮し、統一的で落ち着いたデザインとなっている。（裏表紙にその説明が、わかりやすく示されている）</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びナビ」の明示、「みちしるべ」などを通して、見通しをもって、学びの確認と主体的・対話的で深い学びの実現が図れるよう、工夫されている。</li> <li>○現代的な課題であるSDGsを国語科の視点で捉え、生徒が自ら問いをもち、考えを交流し、深い学びの実現が図れるよう、工夫されている。</li> </ul>

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">国語</h1> <span style="float: right;">光村</span>
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の第3系列で、言葉をテーマにした教材（1年「言葉に立ち止まる」、2年「言葉と向き合う」、3年「言葉とともに」）を設定するとともに、巻末資料に「語彙を豊かに」を掲載して語彙の拡充を図っている。</li> <li>○情報について、「情報整理のレッスン」（「情報の整理」について）や「思考のレッスン」（「情報と情報との関係」）を設けて、情報の扱い方をわかりやすく示している。また、情報に関する教材をまとめて示す単元「情報社会を生きる」を各学年に設定し、情報を活用する力が高められる工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもつために、冒頭に「学習活動」と「目標」を明示し、学習過程に即して①「捉える」②「読み深める」③「考えを持つ」の3段階に構造化して課題が示されている。また、①～③をもとに「振り返る」で、学習内容の振り返りと定着が図れるよう、工夫されている。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、教材冒頭にこれまでに身につけた資質・能力を「生かす」場を、末尾では習得した力を日常生活や学校生活、将来に「つなぐ」ための具体例を設けながら、育むべき資質・能力を「学習の窓」で解説し、「点」が「線」の学びになるような工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に、「学習の見通しを持とう」を設け、生徒自らが学習の見通しを持ったり、既習事項の確認をしたり、自己評価したりできる、「主体的・対話的で深い学び」に誘う構成になっている。</li> <li>○その学年で学習した内容の振り返りができるように、巻末資料に「『学習の窓』一覧」を設定し、各教材における学習内容及び言語活動を掲載している。</li> </ul> <p>&lt;読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で読書単元を2つ設定し、テーマ別に本を紹介し、読み広げや読み比べ、本の探し方を体験的に学べることで、日常の読書に誘う構成になっている。</li> <li>○1年で「ポップ作りや読書記録」、2年で「本の紹介合戦やポスター作り」、3年で「ブックトークや読書会」などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を発達段階に応じて取り入れている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「思考の地図」では、思考の仕方についてわかりやすく紹介している。</li> <li>○巻末の「学習を広げる」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習・発展学習が主体的にできる資料や、学習の定着を図るための課題を掲載している。</li> <li>○各教材の最後に記載されているQRコードを読み取ると教科書の内容と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のために特化してデザインされた光村明朝体が用いられている。また、ユニバーサルデザインの観点から、見やすさ、読みやすさを追求してつくられたUDフォントを用いて視認性を高めているとともに、色覚特性への配慮もなされている。</li> <li>○欄外に、「意味を調べる」「短文を作る」「関連語句」など、その語句の何に着目して学習すればよいのかが、ひと目でわかるように工夫され示されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「指導すべき内容」と「学ぶべき内容」とが、バランスよくまとまって掲載されている。また、教材ごとに目標が明示されていて、その教材で身に付けるべき力の焦点化が図られている。</li> </ul>



書名  項目	<h1>新しい書写</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東書</div>
内 容	<p>           &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○毛筆の基本紙面の構成は、まず解説を示したあとに教材文字で考えさせる構成となっている。そのため、文字としての知識が指導しやすくなっている。            ○「目標」を明確に示している。六つの過程(①目標②見つけよう③書写のかぎ④たしかめよう⑤生かそう⑥振り返って話そう)を設けて、単元を展開している。文字を正しく整えて書くための知識・技能を「書写のかぎ」と名付けて系統的に構成している。            &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○「見つけよう」で課題発見・把握をさせ、「書写のかぎ」で単元のポイントを分かりやすく説明し、「確かめよう」で書いて確認することで、生徒自ら目標達成できるように工夫されている。            ○「学習を生かして書く」では、三年間で学習する内容や身に付けたい力について学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう題材を設定している。            &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○手紙の作例について形式が正しく示されていて、手紙を書く用具や書体について実生活で生かせるように示されている。            &lt;毛筆と硬筆との関連&gt;            ○毛筆の学習後に、関連した硬筆教材を配置し、両者を関連させながら学習に取り組ませるよう構成している。            &lt;各教科や社会生活との関わり&gt;            ○「生活に広げよう」という項目を設け、社会(歴史)で「漢字の成り立ち」等や本のポップ作り等の成果物が取り上げられていて、他教科に学びが広がるようになっている。         </p>	
資 料	<p>           ○巻末「資料」に「書写活用ブック」があり、日常生活や社会に出でからも活用できるようになっている。活用にあたり、「考える道筋」が示されている。            ○教科書のDマークのあるページには、インターネットを使った学習ができるようになっている。教科書の目次にあるQRコードを読み込めば、教材文字の解説を入れた運筆動画を見ることができる。            ○「常用漢字表」と「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。         </p>	
表記・表現	<p>           ○見開き右ページに目標・学習の流れ、左ページには教材文字だけの紙面になっている。学習要素を同じ位置に固定し、配置されている。            ○紙面に使う色や要素の数を抑え、説明は文節で改行されていて、文章を読むことに困難な生徒に配慮されている。            ○大判化(縦がB5判、横がA4判)されていて、紙面が大きく見やすくなっている。         </p>	
総 括	<p>           ○中学校で身に付ける知識・技能を「書写のかぎ」として示していて、学習事項が明確になっている。            ○日常に生かせる教材で、学びを生活に生かすための思考力を身に付けられる構成になっている。         </p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">現代の書写</p>	<p style="text-align: center;">15</p> <p style="text-align: center;">三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の基本紙面の構成は、まず解説を示したあとに教材文字で考えさせる構成となっている。そのため、文字としての知識が指導しやすくなっている。</li> <li>○「目標」を明確に示している。七つの過程(①目標②ポイントをつかむ③ポイントが他の文字でどこに使われているか④意識して書く⑤振り返る⑥硬筆で書き、学びを確かなものにする⑦学んだことが実際に活用できているかを確認し、自分の言葉でまとめる)を設けて、単元を展開している。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材冒頭の「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを取り上げ、各教材で学習すべき内容がひとめでわかるようになっている。生徒が学習の見通しを持ち、主体的に学習を進められるように工夫されている。</li> <li>○「どこに気を付けて、どのように書けばよいか」という書き方のポイントを具体的な字形例が示されていて、生徒自ら気づけるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「身のまわりの文字」では文字文化の豊かさについて、手書き文字や活字による伝え方の変遷を紹介している。また、文字文化の豊かさにもふれながら、効果的に文字を書くことの必要性を考えることができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のまとめりごとに、毛筆で学んだことを「書いて身に付けよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や社会生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校書写との連携、高等学校芸術科書道への接続の教材が設けられている。</li> <li>○単元の終末に「やってみよう」の項目を設け、グループ新聞、情報誌、名言集作成等の取組みを通して、社会生活との関わりを示している。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末資料編に「日常の書式」と「書写の広場」があり、「日常の書式」には便箋や封筒の書き方等が取り上げられている。「書写の広場」には、「文房四宝」の項目を設け、毛筆の道具を紹介するとともに文字の歴史を解説し、豊かな文字文化に触れられるようになっている。</li> <li>○「学習のはじめに」のQRコードを読み込むと、毛筆・硬筆の姿勢や持ち方など基本的な内容を確認できるようになっている。</li> <li>○「書写の広場」の「楷書・行書一覧表」では、楷書体と行書体を併記している。</li> </ul>	
<p>表記 ・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き右ページに目標・学習の流れ・書き方のポイント、左ページには教材文字・振り返りの紙面になっていて、どの順番で学習すればよいかわかるようになっている。</li> <li>○重要な項目は大きな文字や目立つフォントで示されたり、項目と項目の間に区切り線が引かれたりするなど、生徒に分かりやすい構成になっている。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活・社会生活の中で活用できる「書き方」のポイントが分かりやすく示されている。</li> <li>○学習したことを、多様な「書く」場面で主体的に活用する力を身に付けられる構成になっている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の基本紙面の構成は、まず文字を見て課題を発見し、次に書き方のポイントを確認する構成になっている。課題発見型となっていて、生徒に主体的な学びができるようになっている。</li> <li>○「目標」を示して、学習の進め方が持てるようにしている。五つの過程(①目標②考えよう③生かそう④振り返ろう⑤学習や日常生活に生かそう)を設けて、単元を展開し、身に着ける力を系統的・段階的に見とおせるようにしている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」の問いで観点を示し話し合う活動を設けて、文字同士を比較したり、その差異の理由を考えたりしながら学習のポイントを意識できるように構成している。</li> <li>○主教材となる1文字の学習から他の文字への応用、日常化までの流れをつかむことができ、「深い学び」につながるようになっている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文字が効果的に用いられている場面が写真で掲載されており、文字文化の豊かさを実感できるように示されている。全国の城址の写真は、題材は共通でも表現方法が多様であることを理解できるようになっている。</li> </ul> <p>〈毛筆と硬筆との関連〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のまとめりごとに、毛筆で学んだことを「学習を生かして書く」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</li> </ul> <p>〈各教科や社会生活との関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」では、習得した書写の力を、教科横断的な学習活動や日常生活に活用できるように関連を図っている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末「資料」に「書式の教室」では、手紙の書き方、はがきの書き方、願書の書き方志願理由の書き方など、生徒に役立つ情報が豊富に掲載されている。また、随所に「コラム」として、文字文化を支える道具の紹介や学校行事と文字の関連などを写真図版と解説を交えて掲載している。</li> <li>○教科書に掲載されているすべての教材文字のQRコードを読み込むと、書いている様子を真上から撮影した動画を見られるようになっている。</li> <li>○巻末「漢字一覧表」は常用漢字を小学校・中学校ごとに楷書体と行書体を併記している。また、漢字一覧表索引も掲載されていて、生徒にとって調べやすくなっている。</li> </ul>	
表記 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配していて、見開き完結型となっている。また、学習手順の明確化が図られていて、指導しやすくなっている。また、半紙形を維持した紙面によって、書き始めの位置や文字の大きさや余白のとり方などが実感できるようになっている。</li> <li>○大判化(縦がB5判、横がA4判)されていて、紙面が大きく見やすくなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を系統的・段階的に見通せる教材配列になっている。</li> <li>○話し合い活動ができるようになっており、国語の表現力・思考力を高める教材を豊富に掲載している。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	38 光村図書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の基本紙面の構成は、まず解説を示したあとに教材文字で考えさせる構成となっている。そのため、文字としての知識が指導しやすくなっている。</li> <li>○「目標」を明確に示している。四つの過程(①目標②考えよう③確かめよう④生かそう)を設けて、単元を展開している。「何を、どう学ぶか」がわかるように、学習の進め方が示されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が見通しを持って主体的に学べるように、全ての学習ページに「学習の進め方」が示されている。また、学習のポイントがひと目でわかる「学習の窓」も設けられている。</li> <li>○教科書と「書写ブック」を併用することで、学習が成立する構成になっていて、学習を生かした表現活動に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「全国文字マップ」では、身近にあるさまざまな文字が取り上げられていて、文字への興味を高め、意識を持てるきっかけになるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆で学習したことを巻頭「書写ブック」の硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</li> </ul> <p>&lt;各教科や社会生活との関わり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム・マネジメントに対応して、他教科にも役立つ内容や読書環境、学校行事を彩る多様な作例が掲載されている。また、身の回りにある様々な文字を紹介したり、生活の中で手書きの味わいを実感できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭「書写ブック」は36ページ、巻末「文字を使い分ける」は34ページあり、様々な文字文化の豊かさに触れる資料が豊富にある。</li> <li>○文字教材ページのQRコードを読み込むと、毛筆の筆づかい、運筆などの動画を確認できるようになっている。</li> <li>○「常用漢字表」と「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。</li> </ul>	
表記 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「常用漢字表」と「人名用漢字表」文字の標記が縦ではなく、横に表記されている。</li> <li>○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配していて、見開き完結型となっている。指導過程が四つになっていて、すっきりとしたレイアウトになっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての学習ページに「学習の進め方」を示し、学習のポイントが一目で分かる「学習の窓」も示し、見通しをもって主体的に学べるようにしている。</li> <li>○「書写ブック」で、毛筆で学習したことを繰り返し学習できるように工夫している。</li> </ul>	

<p>項目</p>	<p style="text-align: right;">2</p> <p style="text-align: center;">新しい社会 地理</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">東書</div>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特 内 容</p> <p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題をページ初めに掲げ、そのことを解決するために本文・資料を用いることによって基礎・基本の知識・技能が習得できるようになっている。</li> <li>○地図やグラフの読み取り方など地理的技能を身に付けるために「スキル・アップ」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きのまとめの「課題」では、本時で学習した内容やキーワード等を活用しながら短い文章でまとめたり、キャッチフレーズを付けたりすることで、言語表現するようになっている。</li> <li>○「地域調査の手法」では、身近な地域のまとめ、「みんなでチャレンジ」では、様々な思考チャートを用いて自分の言葉で説明することで思考力等の育成を図っている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学習意欲を高めるため、「現地の人のお話」「地理にアクセス」を設けており、主体的に学習に取り組ませるようになっている。</li> <li>○教科書を貫く5つのテーマを設定し、環境・情報・伝統・人権・防災への意識が高められるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○探究課題が提示され、「学習課題」「チェック」「トライ」「探究ステップ」を示すことにより、順序立てて活動できるようになっている。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">色 資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界と日本の諸地域の学習について、地形の概観が分かる地図、その地方の地域的特色を表す主題図とグラフ、写真、雨温図が掲載されている。</li> <li>○巻頭・巻末には世界の特色ある建物、国旗、住居、農作物などが掲載され、巻末資料には用語解説、都道府県と世界の国々の統計資料、索引が掲載されている。全体を通して写真や資料が使われ、世界と日本の諸地域では、各地方とも同じ位置に同種類の資料を配置することで統一感を持たせている。</li> <li>○QRコンテンツでウェブページにあるデジタル資料で学習を深められるようになっている。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表 記 ・ 表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。重要語句は太字で示され、関連する事項には、本文に→p 00と書かれ、参照できるようになっている。また、資料には見開きごとのまとまりで通し番号を付けている。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題について写真、グラフ、地図などの資料を使って考え、まとめをすることで基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。「みんなでチャレンジ」「スキルアップ」によって読図や作図などの技能を高め、「トライ」や章末のみんなで考えるページで思考力・判断力・表現力等を高めるようになっている。</li> </ul>

項目 書名

# 中学社会 地理 地域にまなぶ

教出

特 内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きページの初めに「学習課題」があり、本文や資料を基に学習を進め、おもに「確認」のコーナーで学習事項の定着が図れるようになっている。</li> <li>○「地理の技」では、個人やグループの活動を通じて、基礎的技能の習得等の確認ができるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読み解こう」では、本文の流れに即し、資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視して、まとめる力を育成するようになっている。</li> <li>○各章や各節などの終わりに、「学習のまとめと表現」のページを設け、自分の言葉で説明することで、思考力・判断力・表現力等を育成するようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の話題や身近な出来事を紹介する「地理の窓」を設定して、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組みせるようになっている。</li> <li>○「地域のあり方」では、生徒たちが自分が暮らす地域の課題解決方法を見出したり、地域に向けて提案したりする学習に取り組みせるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習のまとめと表現」では、語句のチェック、地図上の場所や位置の確認、自分の言葉でまとめて表現する活動、意見を交換する活動を行い、段階的に学習を深めていく工夫が見られる。</li> </ul>
色 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界と日本の諸地域の学習について、地形の概観が分かる地図、その地方の地域的特色を表す主題図とグラフ、写真、雨温図が掲載されている。</li> <li>○巻頭・巻末には世界遺産、国旗、家畜、鉱産物、農作物などが掲載され、巻末資料には用語解説、都道府県と世界の国々の統計資料、索引が掲載されている。また、折り込みページに宇宙から見た地球や日本列島、伊能忠敬の日本地図などを掲載したり、点字に触って読めるようにしたりして地図への興味・関心を高めるようになっている。</li> <li>○QRコンテンツでウェブページにあるデジタル資料で学習を深められるようになっている。</li> </ul>
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。重要語句は太字で示され、関連する事項には、本文に→p 00と書かれ、参照できるようになっている。また、資料には見開きごとのまとまりで通し番号を付けている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題の提示や写真・グラフなどの諸資料、作業学習などにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、発展的な課題の提示や「確認」「表現」によって個に応じた学習が進められるようになっている。また、歴史・公民の関連ページも示されている。</li> </ul>

項目 書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土 46 帝国
特 内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きページの初めに「学習課題」があり、資料や写真を用いて学び、最後に「確認しよう」という構成で知識を習得するようになっている。</li> <li>○基礎的技能を習得させるために「技能をみがく」が設定されており、学習内容との関連が図られている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きのまとめの「説明しよう」では、本時の学習内容についての振り返りをさせることで、基礎的・基本的な知識を活用させ、言語表現するようになっている。</li> <li>○各章や各節などの終わりに、「学習をふりかえろう」のページでは、学習してきた地域や設定されたテーマを自分の言葉で説明することで、思考力等を育成するようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真の読み取り方を学ぶことにより、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組ませるようになっている。</li> <li>○SDGs 11「住み続けられるまちづくり」に含まれる「防災」をテーマに災害に備える意識を高められるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末に「学習を振り返ろう」を設置し、ステップ1で特色と課題を整理し、ステップ2で節への問いへの考えを説明し、ステップ3で話し合いが設けられている。また、私たちとの関わりについての問いも設定し、深い学びができる構成になっている。</li> </ul>
色 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界と日本の諸地域について、地形の概観が分かる地図、その地方の地域的特色を表す主題図とグラフ、写真、雨温図が掲載されている。</li> <li>○巻頭・巻末には世界に広がる日本の文化と技術、農作物、家畜、鉱産物、索引が掲載されている。また、世界や日本の諸地域の学習では、各地方で生活する人による話が紹介され、具体的な生活の様子や考えを掲載している。未来の社会をつくるために参考になる取組を紹介したコラムを設け、共生・環境・防災など今日的な話題を提供している。</li> <li>○QRコンテンツでウェブページにあるデジタル資料で学習を深められるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。重要語句は太字で示され、関連する事項には、本文に→p 00と書かれ、参照できるようになっている。また、資料には見開きごとに通し番号を付け、本文の関連箇所にも同じ番号を付けている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題について、考える視点を明らかにしながら、写真、グラフ、地図等を使って考え、「学習をふりかえろう」でまとめて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力の育成等を図っている。未来の社会をつくるための取組を共生・環境・防災というコラムとして掲載し、社会に寄与する態度を養うようになっている。</li> </ul>

項目 書名	116 中学社会 地理的分野 日 文
特 内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きページの初めに「学習課題」があり、本文や資料で学び、最後に「学習の確認と活用」により、本時の学習内容の知識の確認ができるようになっている。</li> <li>○地理の学習に必要な技能を系統立てて習得できるように「スキルUP」が設定されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の内容の読み取りや、読み取ったことを基に、更に深めるために「資料活用」「深めよう」「確認」が設定されている。</li> <li>○各章や各節などの終わりに設定されている「学習のまとめ」では、学習してきた内容について、自分の言葉で説明しながら思考力・判断力・表現力等を育成するようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全生徒の学習意欲を高めるため、「地理プラスα」を設けて興味・関心を高め、主体的に学習に取り組ませるようになっている。</li> <li>○地域のあり方を考察、構想し、「まちづくり会議」を開いて発信させることで社会の形成に参画する取り組みになっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入ページでクイズを設定し、追究するテーマを設けている。ふりかえりページでは、「アクティビティ」「チャレンジ地理」でシンキングツールを示し、単元全体で主体的・対話的で深い学びができるよう順序立てている。</li> </ul>
色 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界と日本の諸地域の学習について、地形の概観が分かる地図、その地方の地域的特色を表す主題図とグラフ、写真、雨温図が掲載されている。</li> <li>○巻頭口絵には地理的な見方・考え方のイラスト、巻末資料には用語解説、都道府県と世界の国々の統計資料、索引も掲載されている。また、最新のトピックスに関する教材を多く取り上げ、興味・関心を高めながら体系的に学習するようになっている。</li> <li>○QRコンテンツでウェブページにあるデジタル資料で学習を深められるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。重要語句は太字で示され、関連する事項には、本文に→p 00と書かれ、参照できるようになっている。また、資料には見開きごとに通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号を付けている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題に対して、写真、グラフ、地図などの資料を使って考え、「確認」により基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。「地理プラスα」で現代のトピックスを伝え、「自由研究」で補充・発展的な学習を行わせ、個に応じて主体的に学習するようになっている。</li> </ul>



<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">項目</span> <span>書名</span> </div>		<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">新しい社会 歴史</span> <div style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東書</span> </div> </div>
特色	内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き 2 ページを 1 単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、チェック&amp;トライの流れで構造化し、学習内容を定着できるようにしている。</li> <li>○歴史学習の基礎的な知識、技能を習得させる「スキル・アップ」、資料活用の力を高める技能を活用するコーナーが設けられている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きに、短時間の説明・要約などで学習内容をまとめる「チェック&amp;トライ」が設けられている。</li> <li>○2 章から 7 章の最後に「くらげチャート」「ピラミッドストラクチャ」などの思考ツールを活用し、学習内容を考察するまとめの活動を設けている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「もっと歴史」で神話やアイヌ文化など現代に受け継がれている文化を扱い、伝統や文化に対する理解を深め、継承者として資質・能力を養う工夫をしている。</li> <li>○見返して、国宝や重要文化財を取り上げ、通史学習でも文化財や世界遺産などにマークを付し、文化財を通して我が国の歴史に対する理解と愛情を深められるようにしている。</li> <li>○教科書全体を通して、現代的な諸課題を意識しながら学習を勧められるようにしている。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元全体を貫く探求課題を立てる導入、1 単位時間ごとの学習課題を解決しながら進める問いの追究、探求課題を解決するまとめの形で問を軸にして単元を構造化し、課題解決的な学習を進めやすくしている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を補完する学習効果の高い資料を大きく掲載し、資料に付した「図番号」を本文にも付している。</li> <li>○小さな資料は実物大で示し、大きな資料にはサイズが付されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敬体を用い、平易で具体的な表現で記述されている。</li> <li>○ふりがなが教育漢字外の漢字に、見開き 2 ページごとに付されている。</li> </ul>
	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面が AB 版を採用している。</li> <li>○ICT 機器で利用できる「D マークコンテンツ」が設けられている。</li> <li>○問いを軸に単元を構造化し、課題解決的な学習を行い、主体的・対話的で深い学びになるよう工夫している。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">書名</div> <div style="text-align: left;">項目</div>	<div style="text-align: center;">           中学社会 歴史 未来をひらく           <span style="float: right;">17 教出</span> </div>
特 色          内容          資料          表記・ 表現	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本編ページの最後に、「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の定着が図られるように構成されている。</li> <li>○「歴史の技」のコーナーで、個人やグループでの活動を通じて、歴史の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるよう工夫している。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確認」を受けて学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。</li> <li>○「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って考察する学習活動が設けられている。</li> <li>○資料の読み取り方や年表のまとめ方が「歴史にアプローチ」に整理されている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的分野の最後のまとめ学習で、今日的な課題とその解決について、SDGs 達成の観点からも探究・構想し、まとめる活動が設けられている。</li> <li>○各章の通史学習で、導入で資料が大きく掲載され、資料を読み取りながら、章の学習を見通しをもって進められるようにしている。</li> <li>○身近な地域の歴史を調べる学習が時代ごとに設定され、郷土の伝統と文化への関心を高める観点や学び方の手掛かりが、「地域調査の手引き」のコーナーで示されている。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「歴史の技」や「読み解こう」、資料解説に付随した「Q」などの問や、各時間の最後に設けた「表現」のコーナー、各章末の「学習のまとめと表現」の中の問いなどで、問いへの考察に際して見方・考え方を活用できるように工夫されている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は AB 版を採用している。</li> <li>○各章の「扉」ページに「まなびリンク」が設けられ、インターネットを活用して自ら学びに向かう力を支援できるような工夫がなされている。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">書名</div> <div style="text-align: left;">項目</div>		<div style="text-align: center;">           社会科 中学生の歴史            日本の歩みと世界の動き         </div> <div style="text-align: right;">           46  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">帝国</span> </div>
特 色	内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き 2 ページの 1 単位時間が、導入、学習課題、本文、確認しよう・説明しようの展開で構造化されている。</li> <li>○節の冒頭にある「タイムトラベル」のイラストや資料から学習内容を見通し、「章の学習を振り返ろう」で学習内容を振り返る学習活動ができる。</li> <li>○「歴史的な見方・考え方」を働かせるために必要な技能が習得できるように「技能をみがく」コーナーが 12 か所設けられている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「タイムトラベル」で前の時代と比較するコーナーが設けられており、時代の特色を考えることができる。</li> <li>○本文ページ見開き右下に「確認しよう」と「説明しよう」が設けられており、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。</li> <li>○各章末に「章の学習を振り返ろう」が配置され、章の学習で得た知識を生かして、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時代の冒頭に「タイムトラベル」が設けられ、時代への興味・関心を高めてから学習に入ることができるようになっている。</li> <li>○文化史のページでは文化を生み出した社会的背景について丁寧に記述されており、日本の伝統・文化・宗教に対する理解が深められるようになっている。</li> <li>○琉球とアイヌの人々についての記述が充実し、多文化が尊重される社会を意識できるように配慮されている。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで課題解決的な学習ができる構成になっている。</li> <li>○「章の学習を振り返ろう」で「章の問い」に対して歴史的な見方・考え方を働かせて考えるステップなどにより、課題解決的な学習ができる工夫がなされている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の歴史に足跡を残した人物を紹介する「人物コラム」のコーナーが側注欄に 49 名設けられ、歴史に親しみが持てるように工夫されている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UD フォント、カラーUD が採用されている。</li> <li>○見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に設置されている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、AB 版を採用している。</li> <li>○PUR 製本と軽い紙の採用で軽量である。</li> <li>○「タイムトラベル」、「年表」、「人物コラム」など時代をイメージできるような工夫</li> </ul>	

項目		書名  81 [山川]  中学歴史 日本と世界
特色	内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元が、導入の発問、本文、ステップアップによる振り返りという流れで統一されており、知識・技能が習得されるよう構造化されている。</li> <li>○グローバル化に対応できるよう、世界史の叙述を充実させている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入の発問、ステップアップの課題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、判断する力を身につけられるようにしている。</li> <li>○経済・社会の側面も充実させ、多面的・多角的な考察ができるようにしている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな紙面を利用して、図版を大きくし、発問によって、どこに注目すべきかの示唆を与え、歴史への興味関心と呼ぶ工夫をしている。</li> <li>○「身近な地域を調べよう」は、実際の中学生を想定し、調査の順序、注意事項を示し、生徒が主体的に取り組む工夫をしている。</li> <li>○ユネスコの世界遺産と日本の国宝の写真にマークを付し、見返しに日本の世界遺産を示している。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史が変化する過程でおこる諸課題が、どのような時代背景に生まれ、どのような影響を及ぼしたのかを考えさせるような発問を用意している。</li> <li>○「歴史を考えよう」「地域からのアプローチ」で、課題や発問を付し、グループ活動を通して意見を交換したりする力を身に付けさせる工夫がなされている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーUDのみでなく、線種・記号などで差をつける工夫をしている。</li> <li>○図版、キャプションなど難しい感じにはすべてフリガナを付している。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○固有名詞・歴史用語にはすべてフリガナを付している。</li> <li>○UDフォントを使用している。</li> </ul>
	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、AB版を採用している。</li> <li>○章全体を通して、時代の流れを理解できるように「まとめ」が設けられており、各時代の流れ・特徴を深く確認できるようになっている。</li> <li>○世界の様子を地図とイラストで紹介するページが設けられており、高校の新科目「歴史総合」とのつながりが意識されている。</li> </ul>

書名		116 日文
項目		中学社会 歴史的分野
特色	内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き2ページを1単位時間とし、学習課題を明示し、右ページ側注欄に確認コーナーが設けられ、知識・技能の確実な定着を狙いとした学習活動や問いが明示されている。</li> <li>○スキル up によって社会的事象等について調べ・まとめる技能を身に付ける工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「深めようコーナー」が設けられ、習得した知識を定着させ活用することで、思考力・判断力・表現力等の向上を図っている。</li> <li>○各時代のまとめでは、習得した知識を関連させて、時代の特色を捉えることをねらいとしたアクティビティが設けられており、生徒による主体的・対話的で深い学びへの取り組みを支援しようとしている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代的な諸課題の歴史的背景や解決に取り組んだ先人の姿を詳しく解説し、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う学習『歴史との対話』を未来に活かす」が設けられている。</li> <li>○テーマ別さくいと、それを活用して取り組む課題例が提示されており、これらを参考に、生徒が自ら選んだ課題学習に取り組むことができるようになっている。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○複数の資料をもとに、歴史について自分で考えたり、対話したりして歴史を学ぶ面白さを体験できるチャレンジ歴史が設けられており、発達の段階に合わせて、主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫している。</li> <li>○デジタルマークを設け、生徒が主体的にアクセスできるようにしている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図版は、本文との関連が的確で、時代像を具体的にイメージできる資料にしている。</li> <li>○実物大資料など楽しく歴史を学びながら資料活用能力の向上も図る工夫がされている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーUD、UD フォントが採用されている。</li> <li>○小学6年生以上で学習する漢字や、固有名詞などは見開き2ページでの初出にふりがなが付されている。</li> </ul>
	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面は、AB版を採用している。</li> <li>○見開きページの右端に、時代・世紀のスケールが添えてあり、学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できるように工夫されている。</li> <li>○章末に学習の整理と活用が設けてあり、アクティビティで生徒が着実に各時代の特色の理解を深められるような工夫がされている。</li> </ul>

<div style="text-align: right;">書名</div> <div style="text-align: left;">項目</div>		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>[最新] 新しい日本の歴史</span> <span>227 育鵬社</span> </div>
特色	内容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つかむ」ための資料、「調べる」ための資料、「まとめる」ための資料のバランスを工夫し、1時間で資料を効果的に使い、問題解決できるような課題設定をし、知識・技能の習得ができるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末の「日本の歴史を大観する」では、日本の歴史を400字の文章で表現する課題が設けられており、歴史を自分の言葉で表現する力を養おうとする工夫が見られる。</li> <li>○各時間の終わりに、見開きごとの「学習のまとめ」が設けられており、鉛筆マークが付されている。問い方にもバリエーションがあり、思考力・判断力・表現力を育む工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「史料の読み方」、「歴史ズームイン」、「歴史ビュー」、「歴史・ワクワク調査隊」など多様な資料と紙面構成で、歴史事象を多面的・多角的に考察する力を養う工夫がなされている。</li> <li>○日本と同時代の世界の動きを見つめる「このころ世界は」が設けられており、世界史の視点から日本の歴史を考察できるようになっている。また、国際関係や文化交流のあらましを具体的事例で示し、つながりや他民族の文化などに関心を持たせ、国際協調の精神を養おうとする工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史学習の導入、各章の導入「○○の世界へようこそ!」、「鉛筆マーク」、「歴史のターニングポイント」、「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」、各章の「学習のまとめ」、「歴史学習のまとめ」と、学習の段階に応じた言語活動が掲載されている。</li> </ul>
	資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図版、イラスト、写真等の資料類に実寸を併記する工夫や本文の記述と関連付けて的確に提示する工夫が見られる。</li> <li>○「日本の美の形」「歴史絵巻」に力を入れている。</li> </ul>
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字の大きさの配慮や教育外漢字や固有名詞等へのふりがな、難解な歴史用語への補足などがなされている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の紙面はAB版を採用している。</li> <li>○新設の「歴史のターニングポイント」でたちが当事者として歴史と向き合うような工夫がなされている。また新設の「私の歴史博物館」で各時代の展示物と展示方法を考えることで、自ら主体的に時代の特色を捉えることができるようになっている。</li> <li>○女性に着目した「なでしこ日本史」で各章3名ずつ女性が紹介されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>新しい社会 公民</h1>	2 東書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の最初に示す「探究課題」に対し、1時間ごとに学習課題を設定し課題解決のための「チェック&amp;トライ」を設け、時間ごとのまとめを行う。そして、単元の終了時に最後のまとめを行うための「まとめの活動」を設け、学習内容を確実に定着させるようにしている。また、「探究のステップ」「読み取る」や資料の読み取り、収集方法を紹介する「スキルアップ」を設けたり、Dマークコンテンツでつまずきポイントの理解を助けたりして、知識や技能の定着を図るようになっている。</li> <li>○まとめの段階において、思考の整理に適したウェビングやマトリックス、トゥールミン図式、座標軸などの思考ツールを提示し、主体的に思考・判断した内容を適切に表現できるようにし、確実に表現力が身につくよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○掴んだ課題に対し見通しをもって取組ませ、深い学びを効果的に実現することができるように「見方・考え方」のコーナーを設けている。また、学習内容を説明、要約によってまとめる「チェック&amp;トライ」で、思考力・判断力・表現力を高められるようにしている。</li> <li>○「～について考えよう」のテーマで、グループでの協動的活動コーナーとして「みんなでチャレンジ」を設け、対話的な学習を実践できるようにしている。また、「公民にアクセス」では学習内容や関連する内容を詳しく説明するコーナーになっており、表現力等の育成を図っている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「環境・エネルギー」「伝統・文化」「情報・技術」「人権・平和」「防災・安全」の5つのテーマに沿ってそれぞれ諸課題を具体的な事例を通して設定し、持続可能な社会の形成に必要な一人一人の社会参画について考えられるようにしている。また、「インタビューコラム」を随所に設けて、実際に社会に参画している人々の姿から、自らの生き方やキャリア形成について考えられるようにもしている。「18歳のステップ」では、主権者教育に対応している。</li> <li>○「持続可能な開発目標」を取り上げ、領土をめぐる問題や地球環境問題などの諸問題について理解し、課題を解決しようとする態度を養い平和な国際社会の実現に向けて何ができるのかを考えるようになっている。また、「もっと公民」を設定し社会参画を促している。</li> </ul> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「問い」を軸にした単元の「構造化」による課題解決的な学習を実現するために、導入時に単元の「探究課題」を設定し、1時間ごとの学習課題を設定、解決することで、単元全体を貫く問いの解決を図る流れで学習を進められるよう構成されている。また、課題の追究を深めるコラム・活動マークとして「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AB版のサイズを活用し、興味関心を引き出すような資料を大きく掲載している。「分野関連マーク」を設け、3分野の関連を図ったグラフ、資料等が掲載されている。また、他教科との関連ページがみられるDマークコンテンツも設けている。</li> <li>○巻末の「参考法令集」では憲法・法律等を掲載し、日本国憲法の難しい用語の解説を掲載している。</li> </ul>	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文体は敬体で、重要語句は太字で示し、側注で語句を解説している。また、学習課題を明示している。</li> <li>○活動や課題は各種のマークで示されていて、活動等に取り組むようになっている。また、関連事項が分かるように、本文に「→p〇〇」と書かれている。</li> <li>○資料には見開きごとのまとめりで、通し番号を付け、対応する本文の上に該当の番号を付している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙面はAB版である。「導入」で課題を掴み、「展開」で課題を追究し、「まとめ」で課題を解決する単元構成になっている。「集める」「読みとる」「まとめる」「チェック&amp;トライ」で知識・技能の定着を図り、「見方・考え方」「みんなでチャレンジ」「公民にアクセス」で思考力・判断力・表現力を高め、対話的活動も取り入れながら、主体的な学習を進めるようにしている。</li> </ul>	

書名 項目	中学社会 公民 ともに生きる	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認／表現」コーナーを設けている。「確認」では、「確かめよう」「まとめよう」などの課題を解決することで、知識の定着が図られるように構成されている。</p> <p>○「公民の技」コーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、まとめる技能や表現力を養えるように配慮されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「確認」を受けて学習したことを基に表現する活動として「表現」コーナーが設けられており「読み解こう」「Q」が適宜設けられ、地図やグラフ、絵などを読み取って考察する活動が重視されている。また、「読んで深く考えよう」では、『日本の伝統や文化』『ともに生きる社会をみざす人たち』『平和主義のこれまでとこれから』など時事的なテーマや地域の事例から資料を読み深め、思考力を高めるよう配慮され、「さらにステップアップ」コーナーでは、思考がより一層深まるような工夫が図られている。</p> <p>○「確認／表現」の「表現」では、「話し合おう」「意見を交換しよう」などの課題を解決する表現活動を行うことで、自分の意見が他者との交流を経て深まっていくようになっている。また、「言葉で伝え合おう」では、身近な社会的事象をテーマにディベートやシュミレーション、プレゼンテーション、計画の立案等を中心に議論や論述などの教え合い、学び合いによる協働学習に取り組み、さらに表現力を高めるようにしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○学習のはじめに位置付けた「学習課題」から問題解決的な学習の流れが展開できるように、効果的な教材や資料を「読み解こう」で読み解き、「確認／表現」の「問い」に取り組み、自ら学び考えて学習が進められるようにしている。また、中学生の学習活動や社会体験に取り組む場面も紹介され、社会への参画意識の向上を図っている。</p> <p>○「私たちが未来の社会を築く」で、持続可能性を妨げる今日的な課題と解決について、「持続可能な開発目標」達成の観点から探究し、自分との関わりから「私の提案『自分を変える社会をつくる』」を作成して提言する活動を社会科のまとめとして設定している。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○1時間ごとの「学習課題」を明確にし、解決のために「読み解こう」や特設ページの「読んで深く考えよう」「言葉で伝え合おう」で資料を活用させている。また、視点を変えて学習内容を捉え直しながら、STEP1～3まで設定された「学習のまとめと表現」ページを学習していくことで、課題を追究、解決する活動の充実が図られている。</p>	
資 料	<p>○学習に不可欠な写真、イラスト、地図、グラフ、図解などの資料を掲載し、出典と併せて視覚的に捉えやすく配慮している。各資料には通し番号を付け、本文と資料の関連が分かるように資料番号を挿入している。特に、現代史の年表を設けることで、歴史的分野との接続を図っている。</p> <p>○巻末にはが学習資料として「用語解説」や、言葉の解説が併記された「日本国憲法」、学習と関連する法令を集めた「諸法令集」が掲載されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○地名・人名などの固有名詞や用語などには、見開きごとにふりがなを付けるとともに、主要な文字には教育的配慮を施した書体を使用している。文章は、平易な表記・表現であり、側注や巻末には「用語解説」を、さくいんの最後には「欧文略称」のコーナーを設置している。また日本国憲法の条文に開設を付け、難解な法令用語が理解しやすいようにしている。</p>	
総 括	<p>○単元全体の学習を見通す「学習のはじめに」、本編ページに設けられた「確認／表現」「読み解こう」のコーナーや「技」「窓」などのコラム、単元の最後に取り組む「学習のまとめと表現」の流れで、段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。</p>	



書名 項目	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	46 帝国
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○1時間ごとに興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→分かりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識および技能が、確実に習得できるようになっている。そして、「学習の前に」ので学習内容を見通し、「章の学習を振り返ろう」で、章全体の学習内容を振り返る活動ができるようになっている。</p> <p>○『ディベートで議論を深めよう』『KJ法で分析しよう』等のテーマを設定した「技能をみがく」コーナーが10か所設けられ、学習する上で必要な分析する力や意見を整理してまとめる力などの基礎的スキルが習得できるようになっている。また、二次元コードでアクセスすると「まとめ方」アニメーションで、段階を追った「まとめ方」が表示されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「説明しよう」では、1時間ごとの学習内容を活用して思考を促し判断・表現させる問いが設けられ、毎時間、言語活動を繰り返すことで思考力・判断力・表現力を育成できるようになっている。また、各章末には、「章の学習を振り返ろう」が設定され、章の学習で得た知識や「社会的な見方・考え方」を働かせ、単元の問いを解決することで思考力・判断力・表現力をさらに高める課題が設けられている。</p> <p>○特設ページの「アクティブ公民」や「章の学習を振り返ろう」では、具体的な事例や章末の問いに対しての意見交換や話し合いなどの対話的活動を実践できるようにしている。また、実社会のさまざまな課題に取り組む人々へのインタビュー「先輩たちの選択」が設置され、実社会の人々の話を聞く「対話的な学び」を疑似体験できるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○導入として、学習内容を見通すことができる「学習の前に」が設けられ、生徒の興味・関心を引き出し、「主体的な学び」を促すように配慮されている。また、1時間ごとに導入資料が設けられており、写真やイラストなどから学習内容をイメージしている。また、各ページに配置された中学生キャラクターが提示する発問や気づき、学習の手がかりから、主体的に学習に取り組めるようになっている。</p> <p>○コラム「未来に向けて」や特設ページ「よりよい社会を目指して」が設置され、現代社会の諸課題に取り組む人々の姿を示し、「社会的な見方・考え方」を働かせ学習していくことで、第4部第2章の「課題の探究」で『持続可能な社会の実現』に向け、生徒自身が社会にどのように参画していくかの考えをレポートとして論述できるように構成されている。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○単元を貫く「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、節末の「第〇節の問いを振り返ろう」と章末の「章の学習を振り返ろう」というように、問いが構造化され、それぞれの問いを考えていくことで課題解決的な学習ができる構成になっている。特に、「章の学習を振り返ろう」では、問いに対して「社会的な見方・考え方」を働かせて考える箇所があり、課題解決的な学習の工夫がなされている。</p>	
資 料	<p>○資料活用を促すために、学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「条文参照」などのリンク機能が設けられ、本文の記述を補足する写真や図表などが豊富に掲載されている。</p> <p>○学習に必要な用語を解説した「解説」コーナーが測注欄に40項目設けられ、巻末には、憲法・法律・条約等が掲載されており、憲法には用語の解説を設けている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○文体は「です、ます」調で表記され、本文は具体的に例示したり、社会的事象の背景や因果関係まで分かるように平易な表現で、中学生に分かりやすくなっている。また、本文、図版タイトル、難しい漢字、固有名詞や公公用語などには、適宜ふりがなが付されている。</p>	
総 括	<p>「主体的な学び」を行い、学習内容が定着するように「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。また、部や章の学習内容を見通せる「学習の前に」、章・節ごとの単元を貫く問い、政治や経済などのしくみや概念が理解しやすい本文、単元の最後の「節の問いを振り返ろう」「章の学習を振り返ろう」というように単元が設定され、見通し・振り返りに基づいた学習が実践できるようになっている。</p>	

書名 項目	<h1>中学社会 公民的分野</h1>	116 日 文
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○原則1授業時間＝見開き2ページとし、何を学ぶのかを学習課題で明確に示している。側注欄には、「確認」コーナーが設けられ、基礎的・基本的な知識・技能の定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示され、習得した知識・技能を用いて文章化・言語化できるようにしている。また、「公民+α」では、学習に関する事項を掘り下げる具体的な内容を取り上げて理解を深めることができる。</p> <p>○「資料活用」コーナーを設け、必要な情報の読み取りなどの技能向上が図られ、「情報スキルアップ」によって、情報リテラシーや社会的事象について、調べ・まとめる技能を身に付けることができるようにしている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「アクティビティ」では、『効率と公正の考え方』『死刑制度』『自由貿易と関税』などの問いを設け、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら考察し、思考力・判断力・表現力を高め、学習内容の理解を深めるようにしている。また、「深めよう」のコーナーで習得した知識を活用させる問いや学習活動も用意している。</p> <p>○「見方・考え方」コーナーで、学習課題の解決に向けて手がかりとなる見方・考え方の例を示し、見方・考え方を繰り返し働かせるよう「チャレンジ公民」や「アクティビティ」で話し合いや議論などの対話的活動ができるよう設定している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○『まちのバリアフリーを探そう』『15歳は〈子ども〉？それとも〈大人〉？』などの身近な地域の抱える課題に関して考える活動や生徒が将来について想像を膨らませ、社会参画を促す「明日に向かって」を提示し、主体的に学んでいけるようにしている。</p> <p>○日本の伝統文化の継承や創造の意義や日本の領土問題、国際社会の抱える問題などについて取り上げ、我が国を知り、国際社会の中で平和的な解決に向けて考えられるようになっていく。また、学習の最終に、「私たちの課題」を設定し、国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標」と関連させ、『持続可能な社会をめざして』生徒一人一人が何ができるのかを考え、まとめることを通して、社会参画する態度を養うようにしている。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○「チャレンジ公民」では、社会の問題について、自ら問題を発見し解決するために、自分事として考えることができる課題を設定している。また、学習の途中でグループでの話し合いや見方・考え方を働かせることができる問いやシンキングツール、「考察・構想」欄を提示したり「アクティビティ」「深めよう」を活用することで、課題解決に向けた選択・判断を行い考察・構想ができるように構成されている。</p>	
資 料	<p>○デジタルマークを設け、ウェブサイト上で公開している動画や資料、ワークシート等の教材に主体的にアクセスできるようにしている。また、「深めよう」「アクティビティ」など、随所に問いや活動を設け、主体的に学習を行うための教材やシンキングツールを紹介している。</p> <p>○巻末「法令集」の日本国憲法には、難しい用語に解釈を付し、「用語解説」や「類似用語集」も設け、難しい用語や類似用語の違いを解説している。また、巻末に世界地図と現代史年表を掲載し、地理と歴史の知識を公民に関連付ける工夫をしている。</p>	
表 記 表 現	<p>○本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避け具体的に記述している。また、重要語句は太字にして、全てふりがなが付され、大きめのゴシック文字を使っている。</p> <p>○見開きページの右側には、「インデックス」を設けて、生徒が学習している単元を常に確認できる工夫がなされている。</p> <p>○図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読みとらせるようにしている。</p>	
総 括	<p>自ら考える力を育てるために、導入ページ「学習の始めに」で身近な場面から学習内容と「見方・考え方」を掴ませ、本文ページで「見方・考え方」を働かせて、理解し考えるようにさせ、編末の「チャレンジ公民」で社会の課題を考察・構想できるよう構成されている。また、学びを深めるために『デジタルマーク』や『公民+α』、『アクティビティ』『見方・考え方』コーナーなどを設定している。</p>	

書名 項目	新しい公民教科書	225 自由社
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○各章の最後に「学習のまとめと発展」を設け、最重要語句を確認することにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るようになっている。また、見開きページごとに「ここがポイント！」を設け、要点をまとめている。構成としては、基礎的な学習から始め、重ねて学習するたびに、より詳しくより深く理解できるようになっている。</p> <p>○終章の「持続可能な社会を目指して」で、『ディベートをやってみよう』を設定し、ディベート実践例を挙げながら、対話的な活動を設けている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○「もっと知りたい」では、それぞれのテーマについて、異なる考え方を分けて提示することで多面的・多角的に考察できるようになっている。</p> <p>○「対立と合意」等の考え方について全編を通して繰り返し扱うことで、思考力等を育てるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○「もっと知りたい」を設け、興味・関心に応じて学習内容を深め、主体的に学習を進めるようになっている。また、「ここがポイント！」を見開きページごとに設けることで、自主学习を進めやすくなっている。</p> <p>○「もっと知りたい」の中で、「権利の平等に関する問題」や「新しい権利」について取り上げ、個人の尊厳や人権の尊重について学ぶようになっている。さらに「もっと知りたい」の中で、「日本人拉致問題」を学習することで、個人の尊厳や人権の尊重の意義について考えるようになっている。そして、終章の「持続可能な社会を目指して、学習した現代社会のさまざまな問題について、国連が掲げる「持続可能な開発目標」と関連させ、自分は何ができるのかを考え、レポートと卒業論文を作成し、社会参画する態度を養うようになっている。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○基礎的・基本的な学習から系統的な反復学習までの構成が工夫されている。国家についての学習では、一度にすべてを学ぶのではなく、人類の誕生の歴史を背景にして誕生したばかりの状態の国家から、漸次、国家の役割が増え、最後は国民に権利を保障し、平等な立場で政治に参加する国民国家に発展していくように配置されている。</p>	
資 料	<p>○巻頭には「すごいぞ日本の技術は」で世界に誇る先端技術の特集が組まれており、巻末には法令集がある。</p> <p>○巻末「わが国の領域」では、地図や写真を掲載し、生徒が領土について興味・関心をもてるようになっている。</p> <p>○巻頭の「学習を深めるために」では、「ミニ知識」、「紹介する主な人物が」一覧になっている。学習課題の解決に向け、写真・図・グラフ・統計資料等が配置されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○文体は敬体で、重要語句はゴシック（太字）で示している。ゴシックした重要語句は、教科書の最後にあるさくいんに登録され、関連したいくつもの単元で出てくるようになっており、学習したことと連動して理解しやすくなっている。また、本文中で難解な用語には、側注に語句の解説を設けている。</p> <p>○見開き左ページに学習課題を明示している。また、「ここがポイント！」では、学習内容の要点が掲載されている。</p> <p>○本文に「→p○○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。また、側注に「ミニ知識」として補足説明が掲載されている。</p>	
総 括	<p>紙面はB判である。各単元の重要語句は太字になっており、すべて巻末の索引に登録されている。各章の最後にある「学習のまとめと発展」では、各単元の最重要語句を掲示し、基礎・基本の定着が図れるようになっている。また「もっと知りたい」では、写真や図表を示し学習内容の深化を図っている。「ミニ知識」では、本文で学習する内容の補充ができるようになっている。さらに、これらの基礎的・基本的な知識を活用するために言語活動を設け、表現力を高めるようになっている。</p>	

書名 項目	<p style="text-align: center;"><b>〔最新〕 新しいみんなの公民</b></p>	<p style="text-align: center;">227 育鵬社</p>
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <p>○1つのテーマについての学習内容を1授業時間＝見開き2ページにまとめ、問題解決型学習の教材配列を行っている。興味・関心を高め学習課題を「つかむ」ための導入資料、「調べる」ための資料、「まとめる」ための資料を配置し、1時間で資料を効果的に使い、問題解決できるような課題設定と資料や調査活動を通して、「考え」「判断した」ことを自分なりの表現方法でまとめるようになっている。特に、「学習のまとめ」においては、学習内容を理解できたか確認したり、レポートや論述形式でまとめたり、解釈したりするなど、多様な言語活動に取り組み、知識・思考・判断・表現の一体化を図り、知識やまとめる技能が着実に身につくようにしている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <p>○学習を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げた「学習を深めよう」コーナーを49か所設置し、社会的事象を多面的・多角的に考え、今日的課題について話し合ったり、よりよい未来を構想したりする活動を掲載し、思考力・判断力を身に付けられるようにしている。</p> <p>○「やってみよう」では、小集団による話し合いやディベート、シュミレーション、体験学習などの参加型学習を掲載している。また、「スキルアップ」を7か所設置し、発表や議論のしかた、ロールプレイング、ディベート、KJ法、ランキング、ポスターツアーなど、話し合いや対話的な活動ができるようにしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫&gt;</p> <p>○私と「家族→地域社会→国家→国際社会」という流れでテーマが配置され、自分が家族・地域社会・国家・国際社会の中で、どのような役割が担えるのかを考えるような学習構成がなされている。また、各章の「入り口」では、グループ活動を通して章全体の学習内容の見通しをもって主体的に学習に取り組めるようになっている。</p> <p>○国家の主権に関する事項や国際社会が抱える諸問題や平和教育に関する教材を取り上げ、平和な国際社会の実現や国際社会の発展に寄与していくための基礎を考えるようにしている。また終章で、『持続可能な社会の形成』という観点から課題を探究しレポートにまとめ、中間発表や議論、プレゼンテーションなどの活動を行い、社会に参画しようとする態度を育成している。</p> <p>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <p>○1授業時間1テーマの課題を解決できるように、「つかむ→調べる→まとめる」の流れで学習が進むような問題解決型学習の教材配列を行っている。また、「TRY!」のコーナーを設け、教科書で紹介した学習資料について、考えたり、調べたりする課題も掲示している。2～5章の章末に「これから」を設け、学習した内容を踏まえて、社会的事象などの意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したり、未来の姿を構想できるような課題に取り組めるようにしている。</p>	
資 料	<p>○図版、イラスト、写真等の資料は、本文の記述と関連付けて的確に提示し、特に口絵は、視覚的に興味を持てるように工夫されている。また、図版資料には、見開きごとに通し番号を付け確認しやすいようにしている。</p> <p>○巻末の「学習資料」には、憲法・法律・条約を掲載している。</p>	
表 記 表 現	<p>○文字は読みやすい大きさとし、教育外漢字や固有名詞などは適宜にふりがなを振っている。難解な法律用語には、補足を付けるなどの配慮をしている。また、概念的な内容を学習する單元では、イラスト等を用いて理解の手助けをしている。</p> <p>○活動や課題は各種のマークで示されていて、課題解決に近づくための取組ができるようになっている。</p>	
総 括	<p>社会的事象を自分事として捉える教材をバランスよく配置し、全体を構成している。巻頭に「持続可能な開発目標」の17のゴールを一覧できる口絵を設け、5つのPをキーワードとして掲げ、公民の学習の流れが見えるようにしている。そして、「なぜ『公民』を学ぶのか」で自分と家族・地域社会、国家、国際社会の関係が考えられるよう内容を設定している。1テーマ1授業時間の学習で課題が解決できるような問題解決型学習の教材配列を行っている。</p>	



# 中学校社会科地図

項目	書名
特色	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭の「この地図帳の使い方」の「地図の要素」で読図の視点や地理的特色の追究方法を示し、読図の技能を身に付けるようになっている。</li> <li>○巻頭で、自然（地形や気候）や日本と関わりが深い世界の国々の生活や文化についての資料図をまとめている。</li> <li>○歴史的分野に関連する史跡等を世界・日本の両基本図に掲載している。</li> <li>○日本の基本図のページに、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げており、日本固有の領土であることを明記している。</li> <li>○環境問題や災害問題の特集したページを設けたり、各州・地方ごとに環境問題や防災・災害に係る資料図を掲載したりして、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がなされている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地図活用」を設けて、基本図や資料図から自然、都市、交通、文化、産業、歴史、環境などの特色を考察し、関連付けて地域的特色を理解させるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各州・地方ごとにそれら大観する資料図、様々な視点の資料を一続きにまとめ、各地域の地理的特色を、大観的かつ多角的に追究するように構成されている。</li> <li>○世界各州の資料中に「日本との結びつき」の資料を掲載し、世界の諸地域を日本との結びつきからとらえられるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;課題を追求・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地形図って何だろう」で地形図の活用の仕方を例示し、主体的に学習が進められるようにしている。</li> <li>○日本の基本図では、全体図の次に自然、降水量、人口分布、農業、工業・交通を掲載し、地域の地理的特色に着目できるようにしている。</li> </ul>
色	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の各州ごとに鳥瞰図を示し、また「ながめてみよう」ではイラストを付すなどして、視覚的に州や地域的特色をとらえられるようにしている。</li> <li>○世界と日本の地名別に索引を設けている。資料の検索のために、各右ページの脇にツメを設けている。</li> </ul> <p>表記・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本図で示した地域を位置図で示し、世界の基本図には同縮尺の日本を示している。</li> <li>○折り込みページを設けて、地図記号が確認できるようにしている。</li> <li>○基本図は等高段彩で表現し、地名や記号の表記も目立つようにしている。</li> <li>○基本図や資料図に「地図活用」を示し、各地域の地理的特色をとらえるための視点が分かるようにしている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○江戸時代の東京などの地図や鳥瞰図「本州中央部」に五街道とその全宿場を掲載したり、統計資料では65歳以上の人口割合等を示したりして、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。</li> <li>○地図中の赤色の文字を白色で縁取りしたり、ユニバーサルデザインフォントを使用したりして、色覚に特性をもつ生徒を含めすべての生徒が判別して読めるように工夫している。</li> <li>○社会参画への意識や態度を養えるよう「学習課題」を設け、生徒自らが社会的諸課題について考えたり、話し合ったりできるような工夫をしている。</li> </ul>

書名 項目	<h1>新しい数学</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">東 書</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○課題解決のための問題 (Q) には、①、②…と考える手がかりがスモールステップで展開されている。本文の「問」では、「例」に似た問題に◆マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の再確認を「ちょっと確認」で取り上げている。巻末「補充の問題」に取り組むことができるなど、個に応じて学習を進めることができるようになっている。問題量も従来のものと比べて十分な量がある。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○各学年の巻頭に「大切にしたい数学の学び方」を新設して、問題解決の流れや心がけるポイント、さらには発表の仕方や聞き方を押さえている。「ノートの作り方」、「数学マイノート」を通して、小中一貫したノート指導を行い、生徒本人や友達の考え、感想やふり返りを書く習慣を身につけさせ、思考力や表現力を高めるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○章タイトルが章のめあてとなっており、学習の見通しを持ちやすくなっている。「章とびら」や「節の導入」では、身近な場面や実社会のデータが提示され、数学の新しい性質を発見する活動が多く取り入れられている。また、「学びをふり返ろう」では、数学的な見方・考え方を意識し、そのよさがわかるよう内容のまとめりごとにふり返る機会を設けている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○小中連続を意識して1年生に「0章算数から数学へ」を新設し算数的な題材を用いながら数学的な考え方を学ぶ工夫がなされている。「章とびら」、「学習課題」、「深い学び」と問題を解決するための手順が一貫してスモールステップで展開されており、学習者にもものごとのとらえ方や、思考の進め方が身に付きやすくなっている。</p>	
資料	<p>○挿絵や図表などは、1ページ1コマの大きなイラストで表示し生徒の関心を高める工夫をしている。方程式の文章題では、問題場面を把握しやすくするよう、挿絵を効果的に用いている。</p> <p>○統計資料は、1学年の資料は「1500mの記録」、2学年では「コンビニエンスストアの販売数」が節を通して同じ題材を使用している。リアルデータを多く用いるなどの工夫をし、生活や日常の場面での数学的活動に結びつけやすくしている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○学習課題、Q、まとめ等が異なる色枠で強調してあり、とても見やすく、スッキリまとめられている。また、例や問は縦罫線があり、内容のまとめりが分かりやすい。</p> <p>○例と問の文字の大きさを1ポイント変えてあり、細かな配慮がなされている。</p>	
総括	<p>「章タイトル」は学習項目や単元名ではなく、学習目標やめあてを掲げ、生徒に学習内容の見通しが持てるようになっている。深い学びのページが設定されており、側注の「問題をつかむ～深める」の過程に沿って考えを進めることで、数学を活用して事象を論理的に考察できるようになっている。デジタルコンテンツが充実しており、ただの拡大教科書やアニメーションを見るだけとして使用するのではなく、図形を動かしたり、データやグラフを変更させることができるなどのシュミレーション機能が充実している。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">数学の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">大日本</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○解決の仕方を「見いだす」・「学ぶ」ものとして「活動」「例」「例題」がある。さらに、新しく学んだことを身につけるものとして、「たしかめ」「Q」「プラスワン」「補充問題」「たしかめよう」「○章をふり返ろう」が用意されている。これらは、全学年・全章とも同じ構成になっており、生徒にとって、学習の型を形成しやすくなっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○各学年の巻頭では、代表的な「数学的な見方・考え方」を、各学年に応じた分かりやすい言葉でまとめている。各章とも、導入のページで主体的な気持ちを引き出し、次ページからの学習へ引き継ぐ構成になっている。また、「問題発見から問題解決の流れ」を4つのステップで示し、その流れを身につけさせる設問を各章1か所設定している。「Q判断しよう」「Q伝えよう」では、学習した内容をもとにして判断する力や、数学の言葉や図などを使って自分の考えを表現する力を育もうとしている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○各節や各章の終わりの「学びのふり返り」「学びにプラス」で数学の有用性に気づくことができるようにしている。また章末にある「活用・探求」「社会にリンク」「MATHFUL」では、学習内容に関連させながら、身のまわりにある数学に目を向けさせている。また、職業として数学を使っている人へのインタビューで、学習意欲が高まる工夫を行っている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○「ノートの作り方」では、ノート作りを通して数学的な思考や表現ができるよう、ノート作りのポイントを示している。「課題学習」「力をのばそう」では、各章やいろいろな領域を総合し、身のまわりや他教科での関連した問題を扱っている。また、「研究をしよう」「レポートを書こう」では、具体例を交えて、研究の仕方の手順やレポートの書き方を示している。</p>	
資料	<p>○教科書全体を通して、写真や図、イラストなどを効果的に用いて課題や本文のイメージをとらえやすくしている。</p> <p>○統計資料については、新聞記事や自治体の広報紙など身の回りの実感をとまなう資料を用いている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○用語・記号は初出時には、太字で示し、ふりがなも振って読みやすくなっている。</p> <p>○「数と式」は緑、「関数」は青…等、領域ごとにメインとなるカラーを設定している。</p>	
総括	<p>教科書の全体の構成は「巻頭」「本編」「巻末」の3部構成になっている。</p> <p>各章では、初めに写真やイラストを大きく使った紙面で、新しい学習内容への期待感を持たせている。さらに学習を始める手がかりとなる問題「考えよう？」や学習のめあてを示し、生徒が目的意識をもって主体的に考えながら学べるようになっていく。</p>	



書名 項目	<h1>中学校 数学</h1>	11 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           学 図         </div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○「ふりかえり」で、既習事項の確認、「確かめよう」で、基礎的・基本的な知識や技能が習得できているかどうかをきめ細かく確認し、定着が図れるようにしている。「やってみよう」では、計算の習熟が図れるようにしてある。章の最後には、「○章を学んで」があり、その章でどんなことができるようになったかを生徒自身がチェックできるようにしている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○章末の「深めよう！」では、主体的に学習に取り組めるようにするとともに、数学を活用して考えたり判断したりする態度を育てるようになっていく。巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポートのつくり方や発表のしかた、発表の聞き方を提示し、自分の考えをまとめる・他者に伝える・レポートを見直すことを通して、意欲的にアクティブ・ラーニングとして協働学習ができるようになっていく。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○1つの学習のまとまりが終わった段階で、適宜次の学習へと深めたりつなげたりする「次の課題へ」が設定されており、「学びに向かう力」が育めるようになっていく。章末の「役立つ数学」では、身のまわりにおける数学に触れることができ、表見返しの「数学の力」では、仕事に数学を生かしている人の話を掲載してある。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○章全体の構成が、「日常生活や社会の事象・数学の事象」→「生徒自身の疑問・問題発見」→「数学的に表現した問題・焦点化した問題」→「数学的な見方・考え方を活用した予想」→「問題の解決」→「まとめ」→「生徒自身の新たな疑問」となっている。数学的活動に重点を置いたページでは、解決への過程が目に見えるようにわかりやすくしてある。</p>	
資料	<p>○各学年の口絵では、身のまわりにある建造物や伝統文様などの写真を取り上げ、興味・関心を高めるとともに数学的な観察のしかたができるようになっていく。</p> <p>○巻末折り込みのホワイトボードの代わりに「アイデアボード」が添付してある。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○写真・イラスト・図版・本文の記述などはすべてにおいてカラーバリアフリーとなるよう配慮してある。</p>	
総括	<p>巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」は、これからの教科書の使い方がとても分かりやすく書かれており、教科書を使って数学を学ぶ上で、動機づけの一助となる。特に、「見方・考え方」では、これからの学習の中でどのような「見方・考え方」をしていけばよいかを2字熟語で10個掲載してある。巻末には、今後の学習や生活にどのような観点で「見方・考え方」を働かせるかを分かりやすくまとめてある。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の始めに「学習する前に」、各章末には「学習のまとめ」があり既習事項を確認できるページが設けられている。また、学年を超えて学び直せる「学びのマップ」が全ての学年で巻末にまとめられている。「算数から数学へ」「ひろがる数学」「数学の広場」等で、小・中・高連携の内容に触れることができる。例・例題の内容を確実に理解するために、例・例題と問の間に「たしかめ」を設けている。よく見られる誤答例をあげ、生徒のつまずきへの支援の工夫がされている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○問題解決のプロセス（進め方）を示したページを掲載している。生徒から多様な考えが出てくる問題を取り上げ、式・図・表・グラフなどを使って自分の考えを伝え合い、みんなで解決する学習活動ができるようにしている。よりよいノートづくりのポイントを各学年に1カ所掲載し、数学的な思考力・表現力を高めるような工夫をしている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○「章のとびら」「Let's Try」「数学の広場」等では、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を扱い、数学を学ぶ必要性や大切さを実感し、興味関心をもって学びに向かうきっかけをつくっている。また、数学の世界をさらに広げたり深めたりすることができる工夫がされている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○巻頭の折り込みを開くと数学の学習を進める上で大切にしたい数学的な見方・考え方を紹介しており、どのページからでも見ることができ、数学的な見方・考え方を意識しながら学習を進めるよう工夫されている。「章のとびら」「Let's Try」「学んだことを活用しよう」が設定され、身の回りの事象から数学を見つけて日常生活、実社会と数学をつなげて、日常の問題を数学を使って解決できるように工夫されている。</p>	
資料	<p>○「ポリオワクチン支援」などSDGs教育の一貫として扱える資料が掲載してある。</p> <p>○巻末付録には、切り取って具体物として扱える資料が用意されている。</p> <p>○写真や挿絵を用いて身近な生活の具体的な場面を想起しやすくしている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○本文にはUDフォントが使用されている。</p> <p>○中心的な内容と補足的な内容を一目で区別できるように側注のデザインを工夫した。</p> <p>○新しい用語や記号、単位は太字で示され、必要に応じてルビが振られている。</p> <p>○定義、公式、重要事項、計算の仕方等は、囲みや色づけで強調されている。</p> <p>○「問い」には、「？」マークをつけて強調している。</p>	
総括	<p>章の始めに、「学習する前に」、章末に「学習のまとめ」があり、既習事項を振り返るページがある。章の学習の中では、重要な「問い」には「？」マークをつけて強調し「問い」を持ちながら学習を進められるようにしている。「問題解決のプロセス」を示し、自分の考えを伝え合い、みんなで解決する学習活動を意識した構成になっている。本文と学習支援の内容が一目で区別できる紙面デザイン、側注の効果、折り込みの工夫により、生徒自らが読み解きながら学びやすいものになっている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">未来へひろがる数学</h1>	61 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○章末問題の「学びをたしかめよう」では、章のどこに対応しているのかがわかりやすく、容易に振り返りができる。巻末の「もっと練習しよう」や自分から学ぼう編の「力をつけよう」を使い、反復練習として利用できるように構成されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○章末問題の「学びを身につけよう」や巻末の「力をつけよう」では、じっくり考えて解決する問題を取り上げ、思考力を育むことができる。「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」では思考力・判断力・表現力が高まるように構成されており、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較して考えたりする場面が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○主体的に学習に取り組む場面や、自らの学習を客観的に振り返る場面を設け、学びに向かう力を育成できるように配慮している。「学びのあしあと」で学びの記録を残すことができるようにしている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○身のまわりの問題を数学的に考えたり解決したり、数学の事象から問題を発見し解決したりする活動、数学的な表現を用いて道筋立てて説明し伝え合う活動の場面が設けられている。利用の節の先頭の課題では、身のまわりの場面から問題を発見し、数学を使って解決する流れが見える「ステップ方式」の構成にしている。</p>	
資料	<p>○1年生のデータの活用（1節）では、「紙の滞空時間」という1つの題材を通して、代表値や相対度数などを扱い、その有用性を表している。</p> <p>○3学年合計で164箇所ものQRコードが配置されており、教科書の内容に関連するコンテンツを見ることができる。これにより、授業補助や家庭学習での一助となる。</p>	
表記・表現	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○新しく学習する用語や記号を含む文章に色がついていたり、見やすくなっている。</p> <p>○色彩は、カラーユニバーサルデザインの観点から、個人の色覚差を問わず、色だけで判断する問題を避け、見分けることが困難な配色をしないなど、すべて生徒が見やすくなる配慮がある。</p>	
総括	<p>「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」の2部構成により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた充実した内容である。章末問題や巻末問題も豊富にあり、生徒の学習内容の定着の助けとなる。合計164箇所ものQRコードが配置されており、授業での学習補助や家庭学習での理解に役立つコンテンツも充実している。生徒が主体的に学ぶ姿勢を学校の授業はもちろん、家庭での学習など様々な場面で育ていけるように構成されている。</p>	

書名 項目	日々の学びに数学的な見方・考え方はたらかせる これからの数学 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの数学 探究ノート	104 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">数 研</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各章の最初「ふりかえり」では、その章に必要な既習事項の確認ができる。また、丁寧な説明が多く、特に「関数の意味」や「証明の必要性の意味」など、学力調査などで報告されるような理解に課題があるものについてもわかり易く構成されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○単元の導入や活用段階に「Q」や「TRY」を多く設定し、考える機会を充実させている。章末問題だけでなく、「発展」や巻末の「チャレンジ編」など、じっくり考えて解決する問題を取り入れ、思考力を育むことができる。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○前後の項目、問題をつなぐ形で対話を入れ、ストーリー性のある学習展開になっている。身のまわりの課題を解決する機会を多く設定したり、生徒が興味を持つ図や写真を取り入れている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○対話形式で課題に取り組む様子が見られ、「数学的な見方・考え方」を意識しながら学ぶことができる（疑問の持ち方や多様な考え方の比較、発展など）。「方法の説明」「ことからの説明」「理由の説明」など言語活動主体の問いが多く構成されている。別冊の「探究ノート」では、本誌の題材をより深めるための課題や、既習内容を総合的に活用して解決する課題を取り上げ、自ら疑問を持つ問題発見の意識と、数学を活用して問題を解決する力を高める構成となっている。</p>	
資料	○生徒が興味を持つ図や生徒にとって身近なものの写真を、豊富に取り上げている。 ○デジタルコンテンツも充実しており、授業や家庭学習で生徒の内容理解の補助となる。プリント作成ソフト「Studyaid」は数式、図形、関数グラフ、統計グラフの作成に役立つ。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられている。	
表記・表現	○本文には、UDフォントが使用されている。 ○配色などはユニバーサルデザインに配慮して見やすいものになっている。	
総括	対話形式で課題に取り組む様子が見られ、「数学的な見方・考え方」を意識しながら問題解決のプロセスをわかり易く学ぶことができる。別冊の「探究ノート」では、本誌の題材をより深めるための課題や、既習内容を総合的に活用して解決する課題を取り上げ、数学を活用する力を高める。デジタルコンテンツも充実しており、生徒の学習補助だけでなく、プリント作成ソフトの「Studyaid」は数式、図形、関数グラフ、統計グラフの作成と役立つソフトである。	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	116 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日 文</div>
内容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○1学年の教科書の最初に「算数の確かめ」、各章の前に「次の章を学ぶ前に」があり、新しい学習の前に既習事項の内容が記載されており、小中連携や学び直しがしやすいように工夫されている。身近な事象を数学化するために、「数学の問題にしよう」マークをつけ、対話形式などでことばの数量などに注目して数学の問題にする過程を示すようになっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、数学の学習の中で必要な活動がまとめられており、数学的活動を通した学び方が示されている。また、「大切な見方・考え方」として、「条件を変えて考える」、「同じように考える」、「ほかの方法を考える」など学習活動の中で働かせるべき考え方が紙面の中に具体的に繰り返し示されている。「学び合おう」では、日常や社会の事象や数学の事象を、①見通しをもとう、めあて、②考えよう、③話し合おう、④ふり返ろう、⑤深めよう、⑥もっと深めようの順に問題解決の過程を丁寧に示す工夫がされている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○巻頭の「ノートの工夫」、巻末の「数学のレポートをかこう」では、具体例を示しながらポイントが明記されており、数学の学習に役に立つようになっている。「数学研究室」、「数学のたんけん」、「数学を見つけよう」など日常生活や社会の中にある数学的に考えてられるように工夫がされている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○章のとびらでは、キャラクターによる対話形式で、身近な事柄から数学の問題も見いだす課題や、観察や操作、実験などの活動を通して学習に取り組めるようになっている。「学びあおう」の後半には、友達の考えと同じところはないか、よりよい解決方法はないかなどを話し合い、より深い理解を得る「話し合おう」が設けられている。</p>	
資料	<p>○「章とびら」では、イラストと中学生のキャラクターの対話しながら、多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○統計資料は、1学年の資料は「高知市の3月の平均気温」を中心に、「ハンドボール投げの記録」、「通学時間の記録」2学年の資料は「猛暑日の日数」、「バスケットボールの得点」、など課題に応じて資料を使い分けている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。</p>	
表記・表現	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○新しい用語は、ゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。</p>	
総括	<p>巻頭「数学的な見方・考え方を身につけよう！」で数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことについて説明し、各節では、「大切な見方・考え方」で、それぞれの学習場面で働かせる数学的な見方・考え方を具体的に示し、思考力・判断力・表現力等を育成できるようにしている。</p> <p>深い学びを実現させるために、日常や社会の事象、数学の事象から問題を見出し解決する過程を丁寧に示している。</p>	

書名 項目	新しい科学	2 東 書
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;          ○「これまでに学んだこと」で既習事項を示し、単元末の「学習内容の整理」で重要語句を、「確かめと応用」で繰り返し復習させるようになっている。また「基礎操作」が観察・実験前に設定され、基礎的な技能を習得させるようになっている。つまずきやすい内容には「例題」「練習」「確認」が設けられ、反復練習ができ、デジタルコンテンツの使用も可能である。また、「ここがポイント」欄を設け公式や重要事項が強調されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;          ○巻頭の「考察はここをおさえよう」などで、言語能力の育成に努めるとともに基礎操作「レポートの書き方」やレポート例などによって、結果と考察を科学的に表現されることが促され、言語活動の充実が図られている。観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点を示す。各節の結論を生徒自身がまとめるようになっており、思考力や表現力を養うつくりになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;          ○巻頭で教科書の使い方や議論の進め方・ポイント、発表のしかたなどを説明している。「レッツ スタート!」で、主体的な学習態度を育てようとしている。各章の学習前と学習後に同じ問いかけに答える「Before&amp;After」によって、生徒が自らの成長を実感でき、学ぶ意味や必然性を感じられるようになっている。</p> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;          ○「問題発見→課題→仮説→構想→観察・実験→分析・解釈→検討・改善→結論→活用」といった学習構成になっている。「科学のミカタ」で理科の見方や考え方を示し、より深く考えさせるようにしている。「確かめと応用」には活用型問題が多く載っており、科学的に探究する能力を育成できる。</p> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;          ○「つながる科学」「世界につながる科学」の中で、「くらし」「自然のふしぎ」などテーマ別のコラムにより、日本の科学技術や日常生活との関連が示されている。他教科で学習する内容が「(教科名)で学んだこと」「(教科名)で学ぶこと」として提示され、複合的なつながりの中で知識を定着させるよう配慮されている。</p>	
資 料	<p>○多彩な写真やイラスト、読み物、デジタルコンテンツが豊富で、科学が身近なものであることや、科学を学ぶ意義を伝える工夫がされている。</p> <p>○各学年の巻末にペーパークラフトを巻末付録として付けられ、平面では理解しづらい内容がサポートされている。</p>	
表記・表現	<p>○ユニバーサルデザイン書体を使用し、重要な語句や式は太字のゴシック体が使用され、振り仮名を付けたり、波線をつけるなど工夫し、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○教科書で使われているマークを丁寧に説明し、マークを見ることで、注意する点等への意識を高める工夫がされている。文章は短文が心がけられており、明快で簡潔な表現になっている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「科学的な探究の流れ」が示されており、理科の学習の進め方がわかるようになっている。また、デジタルコンテンツにQRコードでアクセスできる。学年別の3分冊とし、観察・実験しやすい時期や生徒の発達段階をふまえた単元配列になっている。</p> <p>○単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」「確かめと応用 活用編」「世界につながる科学」を示している。</p> <p>○巻末には、「ペーパークラフト」「学びを広げよう 自由研究」「実験器具一覧」「薬品のあつかい方」「科学史年表」などがまとめられている。</p>	

書名 項目	理科の世界	4 大日本
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;  ○「これまでに学習したこと」で大きくページを割いて、既習事項をわかりやすく示している。「理科の学習の進め方」や「これから学習すること」で、学習単元順にわかりやすく並べられており、生徒に見通しを持たせるよう工夫している。単元末の「まとめ」で、キーワード等を確認するためのチェック欄を設け、重要語句を復習するようになっている。「基本操作」では、図・写真やイラストで手順がわかりやすく示されており、観察・実験前に設け、器具の基本的な操作技能を習得させるようになっている。器具によっては操作方法の動画コンテンツも用意されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;  ○観察・実験では「結果の整理」「結果から考えよう」で結果・考察の視点を示し、考察・振り返りをしやすい工夫がされている。単元末の「読解力問題」では、学んだことを活用して考えたり、表現したりすることにより思考力、判断力、表現力等を育成するための配慮がされている。「私のレポート」で、他の人が見てわかるよう基本的なレポートの書き方を学ばせるようになっている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;  ○各単元の扉で、見開きでインパクトのあるダイナミックな写真を掲載し、本文でも生徒に親しみやすい身近な事象（家電、人物、職業など）を紹介することで、知的好奇心を高める工夫がされている。巻頭の「学習の進め方」で教科書の使い方を示し、その中で探究の流れが説明されている。「やってみよう」「課題を見つけて探究しよう」などで生徒が進んで探究しようとする意欲を高めるよう工夫をしている。</p> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;  ○観察・実験の「タイトル」「目的」「着目点」を分けて明確にし、生徒が見通しを持って取り組めるよう工夫している。観察・実験、基本操作などを通して、探究の方法や基礎的・基本的な知識を習得できるようにしている。「結果から考えよう」などで考察の場面を設定し、理科の見方や考え方の育成を図っている。「科学のあしあと」などを掲載することにより生徒の主体的な深い学びを実現できるような構成を工夫している。</p> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;  ○「Science Press」や「くらしの中の科学」で、日常生活や社会で活用されている話題を紹介することで、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。また、単元末「つながる」で算数や数学、保健体育など、学習内容に関連する他教科の学習内容を履修学年とともに示している。</p>	
資 料	○WEB コンテンツ、PDF 資料に対応するページにマークを付けている。 ○図表、写真などは、内容に最も適切な表現方法で提示している。また、図や表の表現形式が統一されており、それぞれの内容が学習に十分活かされるよう配慮されている。	
表記・表現	○特別支援教育の観点からユニバーサルデザインフォントを使用し、重要語句や式には太字のゴシック体を使用している。重要語句は太字に振り仮名を付け、式は単位を付けて表記している。 ○発達段階を考慮し、1年の本文や資料が2、3年よりも大きな文字を採用している。親しみのもてるキャラクターを配置し、セリフを参考に主体的に学習できるようにしている。	
総 括	○巻頭で「理科の学習の進め方」が示されており、生徒が見通しをもって学習できる工夫がされている。また、デジタルコンテンツにQRコードでアクセスできる。学年別の3分冊とし、それぞれ観察・実験のしやすい時期や生徒の発達段階をふまえた単元配列となっている。 ○単元末に「探究活動」「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」が設けられている。 ○巻末には学年に応じて「自由研究にチャレンジしよう」「行ってみよう！科学館・博物館」「探究の進め方」「ノートやレポートの書き方」「理科室のきまり」「基本操作」「理科の学習と算数・数学」「学習のまとめ」を設けている。	

書名 項目	中学校科学	11 学 図
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt; ○「この時間の課題」「この時間のまとめ」が示されている。「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項が示され、「この時間のまとめ」や章末「何ができるようになったか」「Can-Do List 自己チェック」でふり返る活動やQRコード先の基礎問題で復習させるようになっている。また、「基本操作」を観察・実験の近くに設け、基礎的な技能を習得させるようになっている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt; ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の見方・考え方の例を示している。「ふり返り」で実験の再確認をするために会話で例を示し、思考力、判断力、表現力等を育成する場面を示している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt; ○巻頭で、理科の学習のしかた、教科書の使い方、ノート・レポートの書き方、発表のしかたなどを説明している。「理科のトリセツ」の中の「なぜ理科を学ぶの？」で理科への関心意欲の向上を図る情報を提示したり、探究の過程を示したり、「授業を受けるコツ」や「伝える・伝わるコツ」等を示すことで、学習意欲を向上させるための工夫がされている。</p> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt; ○探究の仮説設定や計画立案では、生徒の話し合いの場面を提示し、観察・実験では、「基本操作」「方法」「結果」「考察」の手順がていねいに記述されている。結果・考察の見方・考え方を示し、科学的に探究する学習となるように工夫している。「なぜ理科を学ぶの?」「どうやって理科を学ぶの?」等で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて説明している。</p> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt; ○章末の「学びを日常にいかしたら」を掲載し、問題演習をとおして、日常生活や社会でどのように活用されているか考えを深めるように工夫がされている。防災・減災、SDGsに関わる身近な例を調べようとする探究活動が紹介されている。</p>	
資 料	<p>○大きく多彩な写真・イラストや「サイエンスカフェ」などの読み物を掲載し、科学が身の回りにあふれていることや科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。実験説明に多数の写真を使用して、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。</p> <p>○QRコード教材が活用できるようになっている。巻末にホワイトボードのページを配置し、生徒同士の話し合い活動を支援している。</p>	
表記・表現	<p>○わかりやすい紙面やインクルーシブ教育の視点から、グラフは色以外に線種を分けたり、重要内容を簡条書きにしたりしている。</p> <p>○ユニバーサルデザイン書体が使用され、重要語句や式は太字のゴシック体で表記されている。また、重要語句には振り仮名を付け、式は単位を付け下地の色を変えて表記している。</p> <p>○分野ごとにインデックスで色分けして表示している。</p>	
総 括	<p>○巻頭の「理科のトリセツ」で、理科を学ぶ意義や研究の進め方が示されている。学年別の3分冊とし、それぞれ観察・実験のしやすい時期や生徒の発達段階をふまえた単元配列になっている。デジタルコンテンツとしてQRコードの活用が多い。</p> <p>○単元末に「学び続ける理科マスター」「学びを日常にいかしたら」が示されている。</p> <p>○巻末に「実験に使う主な器具」「実験器具の操作」などが掲載されている。また、「学びの交換」のために「ホワイトボード」を付けている。</p>	



項目	書名  自然の探究 中学理科	17 教出
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt; ○「学んでいくこと」「これまでの学習」「思い出そう」で、既習事項を示している。「要点をチェック」「要点と重要用語の整理」「基本問題」「学年末総合問題」の4つのステップを設け、知識・技能の確実な定着を図ろうとしている。「基礎技能」を観察・実験前と巻末資料に設け、基礎的な技能を習得させるように工夫されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt; ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示し、結論が明確に示されている。「わたしのレポート」で基本的なレポートの書き方を学ばせ、論理的な考察や表現のための参考となるようにしている。「考えよう」「話し合おう」などで思考や表現する場面を設定している。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt; ○巻頭で「探究の進め方」を示し、具体的な例なども挙げ、理科の学習の進め方を説明している。「学習前の私」「学習後の私」で、学習後の自分の成長が自覚できるようになっている。また、観察・実験では結果や考察でまとめ方を示している。「やってみよう」「活用しよう」などの項目を設定することで、生徒に探究的な学習をさせるための工夫をしている。</p> <p>&lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt; ○巻頭の折り込み「探究の進め方」は、学習を進めながら確認できるようになっている。観察・実験では「方法」「結果」「考察」が別々の欄に配置されており、結果から考察を導きやすい構成になっている。「考えよう」では、課題解決の方法や結果の予想が立てやすい工夫がされている。キャラクターの発言、対話をとおして探究を深める姿を示している。</p> <p>&lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt; ○「ハローサイエンス」で、日常生活と関連した話題や社会と関連する事象を取り上げるなどの工夫がされている。日常生活や社会・環境と関連する写真や話題、日常生活で生徒が目にすることができる事物や自然現象の写真や話題等を取り上げている。巻末に理科で使う算数・数学がまとめられている。</p>	
資 料	<p>○多彩な写真・イラストや「ハローサイエンス」などの読み物を掲載し、科学が身の回りにあふれていること、科学を学ぶ意義や有用性を伝えたり、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。</p> <p>○「まなびリンク」やQRコードを使って学習に活用できる資料がある。巻末に学習に利用できる付録が付いている。</p>	
表記・表現	<p>○ユニバーサルデザインフォントを使用し、重要語句や式は、太字のゴシック体を使用している。また、重要語句には色（明るい橙色）を変えて振り仮名を付けている。式には単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○1年生の本文文字サイズが13ポイントで、2・3年生より大きな文字サイズにして読みやすくしている。また、安全の観点から「禁止」「注意」「指示」の3区分のマークを使用している。</p>	
総 括	<p>○巻頭に「探究の進め方」が示され、学習の流れが分かるようになっている。QRコードで学習に役立つ情報を閲覧できる。学年別の3分冊とし、それぞれ観察・実験のしやすい時期や生徒の発達段階をふまえた単元配列になっている。</p> <p>○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」「ハローサイエンス」を示している。</p> <p>○巻末には「学年末総合問題」を掲載している。また、「生物カード」「原子のモデルカード」「ペーパークラフト」などが付けられている。</p>	

書名 項目	未来へひろがるサイエンス	61 啓林館
内 容	<p>           &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○「つながる学び」「思い出してみよう」「サイエンス資料」などで既習事項を示している。章末の「基本のチェック」で、用語をつないで説明する問題を掲載している。「力だめし」「思考力UP問題」「学年末総合問題」で、応用する力の育成を図る工夫をしている。観察・実験の基本的な技能が、「実験・観察のスキル」や「サイエンス資料」で示されている。         </p> <p>           &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○教科書全体で探究的な学習過程が重視されており、観察・実験の計画を立てたり、結果を整理して分析・解釈したり、表現したりする力が育つよう工夫されている。「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。「話し合ってみよう」「考えてみよう」「表現してみよう」など、思考したり表現したりする活動の場が豊富に用意されている。自分の考えやモデル化したことを書き込む欄を設けている。         </p> <p>           &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○巻頭の「ガイダンスページ」で、科学的に探究することの意義や、探究の進め方が示されており、科学的に探究しようとする態度が育つよう工夫されている。また、観察・実験では結果や考察のポイントを示している。さらに「ためしてみよう」などにより生徒が進んで探究しようとする意欲を高める工夫がされている。実生活との関連から学習の有用性を示し、学習への意欲につなげている。単元ごとに「探Q実験」が設定され、巻末に対応した「探Qシート」を活用して主体的に学習をさせるための工夫がされている。         </p> <p>           &lt;科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫&gt;            ○生徒観察・実験では「探究のふり返し」が設定されており、仮説や計画の妥当性を吟味したり、新たな課題を探したりして、深い学びにつながるよう工夫されている。巻末の「探究の流れと探究のふり返し」で、ふり返りの観点と例が示され、課題解決的な学習が行えるよう配慮されている。単元末の「みんなで探Qクラブ」で、身に付けた知識・技能を活用する場面が示されている。         </p> <p>           &lt;日常生活や他教科等との関連を図るための工夫&gt;            ○学習内容と関連した科学コラム「部活ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」など細分化され、より身近な科学に興味・関心を高めるよう工夫している。また、身近な自然や社会、歴史、環境などの多様な場面で、科学を学ぶ有用性を感じさせるようになっている。他教科と関連している学習内容には、教科名を表示している。         </p>	
資 料	<p>           ○「科学コラム」は質・量ともに充実しており、節末に配置することで学習展開が途切れないよう配慮している。単元末の「ひろがる世界」では、日常の話題、最新の科学技術、エネルギー問題などに関する話題を取り上げている。         </p> <p>           ○図や写真を本文より上の紙面上部に左右に大きく配置している。導入的な動画等、QRコードを活用したデジタルコンテンツを利用できるようになっている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシックで表記、重要語句には振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。         </p> <p>           ○文章表現や図版・写真はわかりやすく科学的で、発達段階にも配慮している。ポイント、注意事項など色分けをして、区別している。         </p>	
総 括	<p>           ○巻頭に「探究の過程」が示され、理科の学習の進め方がわかるようになっている。QRコードが多く活用されている。学年別の3分冊とし、それぞれ前半は2分野、後半は1分野とした単元配列になっている。         </p> <p>           ○単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」「広がる世界」を示している。         </p> <p>           ○巻末に「学年末総合問題」「サイエンス資料」を掲載している。また「探Qシート」を付けている。         </p>	

書名 項目	<div style="text-align: right;">17</div> <div style="text-align: center;"> <b>中学音楽 音楽のおくりもの</b> </div> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <b>教出</b> </div>
内 容	<p>学習指導要領に基づいた3つの柱に対応する「学びのユニット」が示され、それぞれの目標に対して〔共通事項〕を窓口に、音楽を捉えて各教材が示されている。</p> <p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <p>○学年ごとに歌うためのアドバイスや、表現の基礎的な技能を習得し創意工夫して表現するための解説がイラスト等を用い、わかりやすく示されている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <p>○表現したいイメージのヒントとして、思考力、判断力、表現力につながる質問や助言が示され、知覚・感受したことを直接書き込める部分がある。</p> <p>○学年ごとに、音楽を形づくっている要素を感じ取って聴き、言葉で説明できるように構成され、段階的に思考・判断ができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <p>○各教材には、目標とする学習内容が示されおり、この教材で何を学ぶかをしっかりととらえて主体的に学習に取り組める構成になっている。</p> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</p> <p>○教材ごとに〔共通事項〕が示され、系統的・発展的に学習する構成になっている。</p> <p>○我が国の伝統的な歌唱について、特徴を感じ取ることができるよう工夫されている。</p> <p>○鑑賞教材では、対話的な活動につなげることができる配慮がされている。また鑑賞と表現の活動を関連付ける教材も取りあげられている。</p> <p>○旋律づくりと音楽を構成することの指導事項にそった創作活動が展開できるよう工夫されている。</p> <p>&lt;音楽文化についての理解を深めさせる工夫&gt;</p> <p>○我が国や諸外国の音楽文化についてその共通性や固有性等を考慮して学習できるように工夫されている。</p> <p>○民謡や能の謡が体験できる楽譜が掲載され、より深く音楽文化を理解するための工夫がされている。</p> <p>○既習曲を中学生にふさわしい混声合唱に編曲したもの、同一曲を学年に応じて編曲したもの、世代間や他の国との交流を意識した歌唱教材等、工夫して掲載されている。</p>
資 料	<p>○音楽を愛好し、また音楽を多面的な角度から学習するための教材として多くの写真やわかりやすい解説を取り入れるなどの工夫がされている。</p> <p>○それぞれの音楽の共通点や相違点を探る教材のていじとして「まなびリンク」がQRコードで示され、協同学習、個別学習、家庭学習など様々な学習形態に応じた資料として活用しやすくなっている。</p>
表記 ・表現	<p>○歌唱共通教材は、楽譜、縦書きの歌詞、ピアノ伴奏譜、写真が掲載されている。</p> <p>○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」では、掲載ページも示している。</p> <p>○生徒わかりやすいよう、キャラクターを用い、語りかける説明方法がとられている。</p>
総 括	<p>○道徳教育との関連を重視し、命の大切さや思いやりの心などをテーマとした歌唱教材が掲載されている。</p> <p>○年間を通して経験の浅い教員でも安心して使用できる教科書である。</p>

書名

## 中学生の音楽

項目

内 容	<p>学習指導要領に示された三つの資質・能力に対応する「学びの地図」では、それぞれの学年の学習内容、教材がわかるように示されている。</p> <p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽の記号について、ゲーム等の方法で学習が進められるよう工夫されている。</li> <li>○様々な表現方法について、学年ごとに基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽を形づくっている要素を感じ取って聴き、言葉で説明する構成になっており、知覚・感受したことを直接書き込める部分もある。</li> </ul> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に、学習目標と学習目標に迫る具体的な学習活動の手順や必要な情報が示され、主体的に学習を進める構成になっている。</li> <li>○音や音楽との関わりについて、視野を広げて学べるように工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に学習の目標と学習指導要領に示された【共通事項】を示し、全学年を通して教材が系統的・発展的に掲載されている。</li> <li>○我が国の伝統音楽を含め、演奏者からのアドバイスや解説、音の高低がわかる絵譜の提示、聴いてまねるなど、学習内容をわかりやすくするための工夫がされている。</li> <li>○創作活動について、学習内容や活動の手順、個人やグループの活動場面を示し、段階を追って創作に取りくめるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;音楽文化について理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽の特徴やよさ及び多様性を感じ取るために西洋音楽史を日本の歴史から捉えるコーナーや聴くポイントを示すこと、また多くの関連写真の掲載などの工夫をしている。</li> <li>○西音楽の広がりを見立て、音楽の幅広さを視覚的に理解できるよう工夫している。</li> <li>○我が国や諸外国の様々な音楽文化に触れて学べるような資料の掲載により、ポピュラー音楽を含め、生涯を通じてたくさんの音楽に出会えるきっかけになるよう工夫されている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽を多面的な角度から学習できるように工夫されている。</li> <li>○教材の場面と一致した写真の使用や、多くの著名人の写真やメッセージの掲載等、生徒が興味・関心を持つための工夫がされている。</li> <li>○「耳でたどる音楽史」では、日本と西洋の音楽史が時代ごとに掲載され、楽曲を試聴できる工夫がされている。</li> <li>○カラーページが豊富で、写真や図解も鮮明な構成になっている。</li> <li>○映像資料等が必要と思われる教材ごとにQRコードが示され、学習をサポートするコンテンツをICT機器等で閲覧することができるようになっている。</li> </ul>
表記 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての楽譜が白地に黒の音符で書かれていることや、背景図との色のはっきりとした対比等により、教科書全体が誰もが見やすい表記になっている。</li> <li>○音楽記号や用語等の表記が適切であり、新出時にはわかりやすく提示している。巻末には発達の段階に応じた楽典のまとめが掲載されるなど理解しやすい構成になっている。</li> <li>○学習内容や学習事項が一目でわかるように、字体や色彩、デザイン工夫がされているので、わかりやすい。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書への書き込みできる箇所が多く、手順に沿って学習を進めることで、音楽科における資質・能力を身に付けている上で、学習者も教師もともに学びやすい構成である。</li> <li>○命の大切さ、思いやりの心など道徳教育に資する歌唱教材が掲載されている。</li> </ul>

書名 項目	17 中学器楽 音楽のおくりもの <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教出</span>
内 容	<p>           &lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;            ○各楽器の構造や各部の名称が写真やイラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。         </p> <p>           &lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;            ○各楽曲に、表現を工夫して演奏するための具体的な問いかけやアドバイスが示されている。            ○音楽的な見方・考え方を活用して、自分なりの考え方をまとめられるよう工夫されている。         </p> <p>           &lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;            ○演奏家からのメッセージや、これから演奏する様々な楽器等を巻頭ページに掲載し、音楽を愛好する心情を育てるための工夫がされている。            ○各教材に目標とする学習内容、楽器の奏法がわかる写真の掲示、楽器やパートを選んだり伴奏をつくったりする活動が設定され、生徒が主体的に学習できる構成になっている。         </p> <p>           &lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;            ○教材には、〔共通事項〕を踏まえた学びのねらいが示されており、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。            ○各楽器とも時代や曲種等に偏りなく、幅広いジャンルの中から教材を選択され、歌唱共通教材や鑑賞教材の楽曲も掲載されている。曲の難易度が示され、写真や解説から個に応じた指導ができるよう工夫されている。         </p> <p>           ○リコーダー学習では、ページの両端に運指が示されているとともに、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらのリコーダーでも学習できる教材も掲載するなど、工夫した構成になっている。         </p> <p>           &lt;音楽文化について理解を深めるための工夫&gt;            ○リコーダーとギター、5種類の和楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材も掲載し、我が国や諸外国の様々な音楽にふれるように構成されている。また和楽器奏者から中学生へのメッセージが掲載されていることで、和楽器に興味を持ちやすくする工夫がなされている。和楽器を用いたアンサンブルも掲載されている。         </p>
資 料	<p>           ○「リコーダーの運指表」「ギター、キーボードコード表」が写真や図で大きく巻末に掲載され、実際に演奏者がコード表を押さえている写真が使われている。         </p> <p>           ○発展学習として、4種類の民族楽器を紹介され、ギター、箏、三味線の学習と関連付けて学習できる。         </p> <p>           ○演奏家の演奏場面の写真とメッセージ、音楽制作現場の写真が掲載されている。         </p>
表記・表現	<p>           ○各楽器の基礎を身に付けるための各楽器の奏法や練習曲等具体的な資料が示されている。         </p> <p>           ○「いろいろな用語、記号」を巻末に掲載し、各教材で扱う記号や用語を一覧にして解説している。         </p> <p>           ○楽器の基本的な奏法が、各ページでイラストや写真を使用して説明されている。         </p> <p>           ○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜両方が示されておりわかりやすい。         </p>
総 括	<p>           ○リコーダー、箏、三味線を学習するコーナーには、関連する鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されているため、多様な角度から学ぶことができる。         </p>

書名 項目	27 <h2 style="text-align: center;">中学生の器楽</h2> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 芸</div>
内 容	<p>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで明瞭に示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度からの写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動のヒントとなる思考力・判断力、表現力につながる助言が示され、曲の構成をパートの役割、〔共通事項〕と関連させながら思考・判断する場面も設けられている。</li> </ul> <p>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材には、目標とする学習内容やその方法、「☑」、「Q&amp;A」、「QRコード」など学習に必要な情報が示されており、演奏の手順がわかる写真や説明も示され、生徒が主体的に学習に取り組む構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材に応じて、学習目標、活動文、〔共通事項〕が示され、また演奏だけでなく創作活動に取り組めるよう教材が配置されている。</li> <li>○各楽器とも、平易な練習曲から学習が進められるようになっており、様々な楽器及び編成によるアンサンブル教材を選択し、生徒が無理なく演奏できるように難易度が吟味され、写真や解説から個に応じた指導ができる設定になっている。</li> <li>○楽器の特徴を理解するため楽器の音色に注目できるよう工夫されている。リコーダーでは、楽曲に音域が示され、ソプラノ、アルトのどちらのリコーダーでも演奏できる楽譜も掲載されている。</li> <li>○打楽器について、持ち方や構え方、演奏方法、リズム例等、数多くの写真を取り入れ具体的に示されている。</li> </ul> <p>&lt;音楽文化について理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の特徴や奏法について「演奏を聴こう」や「演奏者からのメッセージ」、姿勢や礼儀に関する内容も示されている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭では、演奏家の写真とメッセージ、「音楽って何だろう？」のコラムと世界の民族楽器の写真の掲載、巻末では「リコーダーの運指表」、「ギターとキーボードのコード表」、「楽器の図鑑」、「楽しもう！和楽器の音楽（写真付き）」が掲載されている。</li> <li>○楽器の図鑑として、様々な楽器を7つに分類し、写真と名前を載せて紹介している。</li> </ul>
表記 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーとギター、5種類の和楽器と12種類の打楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材を掲載し、アンサンブルを通して我が国や諸外国の様々な音楽にふれるように構成されている。</li> <li>○和楽器においては、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</li> <li>○各教材には、扱われている記号や用語の解説が四角囲みでレイアウトされ、巻末には「音楽の約束」が掲載されている。</li> <li>○ギターのコード表が、演奏者の立場で実際に演奏しやすくわかりやすいよう表示されている。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の音色を聴くために関連した鑑賞教材が掲載されており、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されており、多様な角度から学ぶことができるよう工夫されている。</li> </ul>

書名 項目	美術	9 開隆堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;  ○各題材の導入や作品解説では、造形的な視点を理解できるよう「作者の言葉」として、生徒だけでなくプロの作家のものも多く掲載されており、造形的な視点を制作者視点で捉える工夫がされている。  ○巻末の「学びの資料」では、実際に制作を行う視点で技法等がまとめられており、生徒が制作に生かしながら技能が身に付く工夫がされている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;  ○モデルの生徒が考えていたり活動したりしている写真を豊富に用い、思考することも含め、自分がどのように活動したらよいかが実感を伴いながら理解できる工夫がされている。  ○各題材において、発想・構想の方法のヒントなどを、マークも用いて独立して示す工夫がされており、生徒の発想を助ける工夫がされている。  ○各題材の参考作品として、作品だけでなく、その作品に関わる歴史上の出来事や作者の考え方などを示し、生徒が広い視点からその作品や表現をとらえ、自らの活動に当てはめて発想できるようにしている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;  ○各題材に「学習のポイント」が短く明記されていて、活動や工夫の方向が分かり、活動への意欲が高まる工夫がされている。  ○鑑賞の題材として独立した「まとめ」を設け、美術と生活・社会とのかかわりについて多方面からとらえ、興味深くまとめられている。</p> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;  ○鑑賞の題材での「学習のポイント」では、自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、鑑賞の観点や手順を示す工夫がされている。  ○知識や理論の学習に偏らないよう、各領域の扉のページで学習を通して学ぶ内容や学習の魅力などを伝える工夫をしている。</p>	
資 料	○原寸や作品の細部を拡大した図版を掲載し、学習意欲を高める工夫をしている。 ○各題材にQRコードを掲載し、鑑賞に役立つ資料、用具の使い方、制作手順やポイントを動画で視聴し、表現や鑑賞の活動を支援できるように工夫されている。	
表記・表現	○「学習の目標」は、三つの観点でマークを使い、安全に関する注意や他教科との関連などを11項目のマークで分類している。「学習のポイント」では生徒が主体的に話し合うことや深い学びにつながるよう配慮されている。	
総 括	○芸術としての美術的要素と、生徒の実際の表現・鑑賞活動におけるヒント等がバランスよく配置されている。特に鑑賞の活動として、新学習指導要領が重視している美術と生活・社会との関わりについて、巻末に詳しくまとめて掲載されている。	

書名 項目	<h1>美術</h1>	38 光村
内 容	<p>           &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○各題材の導入に鑑賞の活動を位置付け、造形的な視点に着目しながら題材を理解し、常に造形的な視点を意識しながら活動ができるよう工夫されている。            ○巻末に「学びを支える資料」として、技法や材料の特徴、色や形に関する造形的な視点、発想法等、実際の生徒の表現活動に生かし、また広げる資料が掲載されている。         </p> <p>           &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○各題材の導入に、生徒の発想、工夫の方向を示す言葉が短文で示されており、そのまま授業における教師の「提案」として活用できる。            ○「みんなの工夫」と題して、2名の生徒の制作過程を詳しく紹介し、制作過程と同時に思考過程の例として示し、説明の難しい思考過程の見える化を図る工夫がされている。            ○美術作品もそのまま鑑賞するだけでなく、作品の比較や環境を替えて鑑賞したり、話し合い・学び合いをしている写真を掲載したりなど、知識より思考を意識した題材の工夫がされている。         </p> <p>           &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○想像力や空想力を働かせる題材を生活画や抽象表現とバランスよく配列し、すべての生徒が意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。            ○美術の学びを振り返りながら、美術の力や働きを人生や社会で生かすことができるように、「美術の力」を掲載している。         </p> <p>           &lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;            ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、他者と意見交換をする生徒の写真に、活動内容を文章で示す等の工夫がされている。            ○知識や理論の学習に偏らないよう、巻頭と巻末で谷川俊太郎の「うつくしい！」という詩が、美術作品や美しい自然の写真とともに紹介されている。         </p>	
資 料	<p>           ○鑑賞図版では、作品の特徴に合わせて用紙の素材を変えるなど、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。            ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度動画や音声ガイド、関連する技法の動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○題材名の下に、表現と鑑賞の二つの領域別の目標を簡潔に示している。安全に関する注意や資料、他教科とのつながりなどを3項目のマークで分類している。各題材の冒頭に鑑賞作品を掲載し、表現と鑑賞を関連付けて深い学びにつながるよう配慮されている。         </p>	
総 括	<p>           ○生徒が活動する視点を重視し、実際に表現や鑑賞の活動をする際のヒントや資料が詳しく、またわかりやすく掲載されている。特に巻末に「学習を支える資料」として、実際の生徒の活動に生かせるたくさんの効果的な資料が掲載されている。         </p>	



書名 項目	<h1>美術</h1>	116 日 文
内 容	<p>           &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;            ○各題材において「造形的な視点」という補足書きコーナーを設け、生徒に問いかける形で美術的要素に気づき、学べる工夫がされている。            ○巻末の「学びを支える資料」では、一目で技法等が比較・選択できるように写真資料が整理されて掲載されており、カタログ的な扱いもできる工夫がされている。         </p> <p>           &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;            ○各題材の導入に、広い視点から、題材の特徴や発想・構想の視点をとらえて文章で示す等、生徒の発想や工夫をさらに広げ、深める工夫がされている。            ○作品に添えられた「作者の言葉」には、類推できそうな言葉がうまく使われていて、生徒が自分の発想に生かせるヒントを示す工夫がされている。            ○「表現」の題材にも「鑑賞」を併記し、すべての題材で表現と鑑賞の一体化ができるようになっている。また作品自体の美しさが際立つ鑑賞題材の掲載等の工夫がされている。         </p> <p>           &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;            ○巻頭の「中学校美術の世界へようこそ」等のページで、美術とはどのような学習なのかを系統的に説明しており、学習に対する理解と意欲が高まる工夫がされている。また「ジジジチカピカポッポッパッ」等、生徒が興味を持つような題材名の工夫がされている。            ○美術の学びが生活や社会の場面で生かされていることがわかるように、様々な職業の人物紹介や「社会に生きる美術の力」を掲載している。         </p> <p>           &lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;            ○言語活動が充実されるよう、各題材に示された問いかけ形式の「造形的な視点」をもとに、話し合いや学び合いができるように工夫されている。            ○知識や理論の学習に偏らないよう、美術を通して自分らしさを見付け、思いを形にする大切さや楽しさ、著名人の思い等を「学びの言葉」として紹介している。         </p>	
資 料	<p>           ○原寸や部分拡大、見開きの図版等を、美しさを意識して掲載することで学習意欲を高める工夫をしている。            ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度画像や技法の説明動画、作品解説動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。         </p>	
表記・表現	<p>           ○題材名の上に活動や目的を示すサブタイトルを設け、三つの観点別の学びの目標を示している。さらに安全に関する注意などを7項目のマークで分類している。特に「造形的な視点」では、共通事項に気づき、また話し合い活動での観点として、深い学びにつながるよう配慮されている。         </p>	
総 括	<p>           ○表現と鑑賞の一体化や美術的・造形的な視点の重視、美術作品の美しい掲載等、美術の芸術としての要素を大切にしたりつくりになっている。特に各題材に「造形的な視点」を示し、活動を通して美術的な視点に気づき、自然に身につく工夫がされている。         </p>	

書名 項目	<h1>新しい保健体育</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識は本文で簡潔にまとめられており、キーワードはゴシック体となっている。</li> <li>○各章末の「学習のまとめ」の中の「確認の問題」では、知識の習得状況を確認することができるよう配慮されている。</li> <li>○新たに示された保健の技能に関する実習ページは、豊富なイラストや写真を用いて手順が分かりやすく示されている。さらに、技能を映像で確認できるデジタルコンテンツが用意されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の活動「見つける」「課題の解決(「発問」「本文・資料」「活用する」)」「広げる」は、それぞれのステップに応じて思考力、判断力、表現力を育成することができるような発問が設定されており、課題の合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、それを表現することができるように配慮されている。</li> <li>○「活用する」では、習得した知識・技能を活用してより深く考える活動が設定されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つける」では、日常経験などから自他の課題発見につなげる発問が設定され、学習課題を自分のものとし、主体的に課題解決に取り組むことができるように配慮されている。</li> <li>○「課題の解決」では、内容のまとまりごとに「発問」が設けられ、資料などを主体的に読み解き理解できるよう配慮されている。</li> <li>○「活用する」では他者に説明したり他者と話し合ったりする活動が設けられている。</li> </ul> <p><b>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな年齢の人たちが、さまざまな形でスポーツに関わり楽しんでいる姿が掲載されており、生涯にわたってスポーツに関わり、その楽しさや喜びを味わう意欲がわくよう配慮されている。</li> <li>○スポーツにはさまざまな違いを超えて人々を結び付ける力があることを示す事例が豊富に掲載されており、運動やスポーツを通して仲間と交流する意義や楽しさや、そのための工夫について考えることができるよう配慮されている。</li> <li>○保健分野各単元の「見つける」「課題の解決(「発問」「本文・資料」「活用する」)」「広げる」の活動を通して身についた資質・能力によって、現在及び将来の生活において、健康に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断の下に適切な意思決定・行動選択を行い、適切に実践していくことができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年別に内容が並び列され、各学年とも、学習指導要領に示された内容の所定配当時間内での指導が可能ないように構成されている。</li> <li>○基本的に1単元が1単位時間2ページ構成となっており、見通しをもって学習できるように配慮されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文は、発達段階に応じた適切な用語で簡単明瞭に表現されている。</li> <li>○キーワードはゴシック体で区別され、巻末に「キーワード解説」が設けられている。</li> <li>○挿絵は、学習事項を的確に表現するとともに、生徒にとって親しみやすいものとなっている。</li> </ul>	
総 括	<p>○子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現して、幸福に生き抜くことを願っている。「身近な生活の中にある課題を、子どもたちが自ら発見すること」、その課題を「主体的・対話的に思考し判断するとともに、表現する活動を通して解決すること」を重視して編集されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校保健体育</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">大日本</div>
内容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○各小単元の本文で基礎的・基本的な学習内容を分かりやすい言葉で明示し、学習すべき内容の確実な習得が図れるように配慮している。            ○まとまりのある本文・資料により、生徒が授業前や授業後に自学自習を行いやすくなっている。            ○知識の定着を図るため、各小単元においてキーワードで学習内容の振り返りをし、各章末では重要語句の再確認ができるようにしている。            ○「中学校保健体育WEB」には「まとめの問題」を用意し、確実に知識を定着させることができるようにしている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○教科書全体で、課題解決学習を通して、思考力、判断力、表現力等が育成されるように配慮している。            ○各小単元の、課題を発見する活動「つかもう」、課題を解決する活動「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」、学習したことを活かす活動「活用して深めよう」などのさまざまな活動により、思考力、判断力、表現力等が総合的に育成されるように配慮している。            ○各章末の「学びを活かそう」では、その章で学習したことをより深く理解し、生活に活かすための課題を設定し、思考力、判断力、表現力等が育成されるように配慮している。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○口絵では、生徒が保健体育を学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に学習に取り組む態度が養われるようにしている。            ○導入の活動「つかもう」では、生徒に身近な題材や自分の生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるようにしている。         </p> <p> <b>&lt;生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>            ○世界で活躍するアスリートや、研究者が「健康に過ごすために気をつけていること」についてのメッセージを掲載し、多様な立場の人々が社会で活躍していることを理解できるよう工夫している。            ○教科書全体で生徒が自分の食生活や健康に目を向けることができるように配慮している。            ○健康を支える食事について特設ページを設け、食事の大切さについて興味・関心を高め、毎日の生活の中で実践できるようにしている。            ○第1学年では、日本の伝統的な食文化である「和食」を紹介し、食事の楽しさや大切さを伝えている。         </p>	
資料	<p>           ○イラストや写真は生徒の学習意欲を喚起したり、興味・関心を引いたりするようなものに厳選されている。            ○グラフや表は正確性に万全を期するとともに、生徒が視覚的に捉えやすいように工夫している。            ○参考資料は科学的根拠にもとづいた最新のデータを採用し、学習の助けとなるものを提示している。         </p>	
表記・表現	<p>           ○文章は生徒の発達段階を考慮して、平易でわかりやすい表現になっている。            ○取り上げる内容については十分に正確性に配慮するとともに、読みやすい表現になっている。         </p>	
総括	<p>           ○学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携を総合的に考慮し、適切な単元配列となっている。            ○各章、小単元の学習は必要かつ十分なものを取り上げ、資料や知識が過多にならないよう、発達段階と学年に応じて精選している。            ○単元内の活動は、授業時間を考慮しながら、知識・技能を定着させるように配慮している。         </p>	

書名 項目	<h1>最新 中学校 保健体育</h1>	50 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大修館</div>
内 容	<p><b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句のポイントが太字で書かれていたり、それに関する解説資料が欄外に設けられており、知識の定着が図れるようになっている。</li> <li>○章末には「章のまとめ」知識・技能の確認問題がもうけられ、知識の確認ができるようになっている。</li> <li>○応急手当の仕方では、イラストや写真で説明したり、フローチャートを載せたりして、実習を通して、技能が身につけられるようになっている。</li> <li>○ストレスへの対処の仕方では、リラクゼーションの方法や体づくり運動と関連した資料が掲載されており、体育と保健が関連して指導ができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各項目の最後に、学習のまとめ「生かそう」が設けられており、習得した知識を活用し、思考力・判断力の育成が行えるようになっている。</li> <li>○章末の「章のまとめ」に、思考力・判断力の項目に分かれた確認問題がもうけられ、思考力が高められる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各項目のはじめに、「課題をつかむ」が設けられており、課題に気づき、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、課題解決に向けた資料が掲載されており、課題解決の方法が分かりやすく提示されている。</li> </ul> <p><b>〈生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体育理論の項目では、運動への関わり方や、歴史や文化を共有できる資料が提示されており、視覚的にとらえ資質や能力を育成させる工夫がされている。</li> <li>○運動やスポーツのなかで、より良い人間関係を気づくことの大切さが示されており、運動に親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。</li> <li>○発展項目に「保健の窓」を提示し、現代の課題を自己の課題と照らし合わせる工夫がされており、健康の保持増進に向けた工夫がされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章末に「クローズアップ 学びを広げよう！深めよう！」が設けられ、資料とともに学習内容の理解が深められるように構成される。</li> <li>○近年の課題を「保健の窓」や「コラム」で取り上げ、発展的な内容を示している。</li> <li>○各項目において、補助資料が3つ以上提示されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポイントの語句が太字で書かれて強調されていたり、学習内容の関連資料がすぐわかるよう、語句の資料番号が提示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての章において「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の順番で構成されており、学びを深めていく工夫がされている。科学的な根拠を踏まえた学習内容が重視され、関連する図表や資料が多く示されている。章末には知識・技能や思考・判断・表現の問題があり、実践力の育成を行っていく工夫がされている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学保健体育</h1>	22 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学 研</div>
内 容	<p> <b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b>          ○見開き2ページを1単位時間で学習することを基本とし、資料・マークなどを適所に使用する構成になっている。          ○学習内容を把握し見通しをもって学習に取り組むように、冒頭の「学習の目標」で学習内容を示している。          ○章末の「まとめる・深める」では、習得した知識を自分の生活へ活用できるよう工夫されている。       </p> <p> <b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b>          ○多くの場面で習得した知識を活用できる工夫がされている。また、実生活へ活用することができる工夫もされている。       </p> <p> <b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b>          ○本文に関連した話を「発展」・「探求」・「情報サプリ」として設け、個々の興味・関心に応じて学習を深められるようになっている。          ○スポーツの学び方では、戦術や作戦の例をイラストや写真で説明し視覚的に捉えることで、理解を深める工夫がされている。          ○運動やスポーツを行うことで、ルールやマナーを守ることや他者を尊重することの大切さについて示され、運動に親しむ資質能力を工夫がされている。          ○「JOB」という項目には学習内容に関する仕事や資格の名称が記されている。このことにより、運動に親しむ能力を育成することに繋がると考える。       </p> <p> <b>〈生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫〉</b>          ○スポーツの学び方では、戦術や作戦の例をイラストや写真で説明し視覚的に捉えることで、理解を深める工夫がされている。          ○運動やスポーツを行うことで、ルールやマナーを守ることや他者を尊重することの大切さについて示され、運動に親しむ資質能力を工夫がされている。          ○「JOB」という項目には学習内容に関する仕事や資格の名称が記されている。このことにより、運動に親しむ能力を育成することに繋がると考える。          ○応急手当では、図や写真を用いて説明することで、実習を通して理解ができるようになっている。喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけでは実際の商品の写真を使用し、危険性を紹介し、より身近なこととして考える機会を設定している。       </p>	
資 料	<p>         ○学習方法の例示など多様な学び方を推奨している。主体的な学びにつながるようディスカッションやブレインストーミングの方法についても具体的に表記されている。          ○学習課題に関連の深い情報やウェブサイトを選別し、紹介している。       </p>	
表記・ 表現	<p>         ○「学習の目標」→「課題をつかむ」→「考える・調べる」→「まとめる・深める」という流れで1時間の学習内容が構成されている          ○用語の解説や関連情報などをサイド解説や注釈、メモ、ガイドなどで示し、内容に沿った形でカラーを用い分かりやすくまとめている。       </p>	
総 括	<p>         ○生涯に渡って健康の保持増進を目指した内容となっている。また、スポーツのもつ素晴らしさ・運動習慣の大切さを多くの場面で表現しており、多様性を考慮した内容にもなっている。各章【学習の目標】を明確に示しており基礎的・基本的な知識の習得とその活用に重点を置いた内容となっている。       </p>	

内容

<知識及び技能が習得されるようにするための工夫>

- ・技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などを掲載することで、科学的な思考に基づく知識が習得できるように工夫されている。
- ・問題解決をするために身に付ける必要がある技能は副題材の実践例や「テックラボ」にまとめ取り組む題材に応じて習得した技能を適切に選択できるよう工夫されている。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

- ・問題解決に導くために、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示している。
- ・既存の技術から見方、考え方を確認する活動を設けて、問題解決に生かすことができるようにしている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

- ・ガイダンスと各編の導入で、「最適化の窓」を設け、主体的に身の回りの技術などを見つめる活動や、技術の見方・考え方を捉えながら技術と関わろうとする態度を身につけることができるように工夫されている。
- ・各節の脚注には、身近な技術や製品などの工夫について興味を持って読み取ることができる「技術の工夫」が掲載されている。
- ・各編の2章では、自分の問題解決の過程を振り返り、粘り強く取り組んだ内容や新たな問題解決に向けての課題などを確認できるように配慮されている。

<技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫>

- ・ガイダンスや各編の導入などで、技術の進歩によって生活がどのように変化したかを紹介し、社会との関連について具体的に示している。
- ・「地球環境や将来の世代のための技術」として、技術が人や社会、環境と関わりながら生活や社会をよりよくするために発展し続けることが掲載されている。

<よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫>

- ・各内容の最終章で、技術のプラス面・マイナス面について考えたり、これからの技術の改良・応用について

資料

- ・豊富な問題解決例を取り上げている。
- ・問題解決例のページに「私の工夫」を設け、生徒の工夫を促す工夫がなされている。
- ・「技術の工夫」を脚注に設け、生徒の興味・関心に投じて扱えるようにしている。

表記・表現

- ・重要語句はゴシック体で強調され、簡潔、明瞭に表現されている。
- ・小中学校の国語指導との連携を図り、発達段階に応じた適切な用語を用いている。
- ・専門的な用語については、側注や脚注などで、生徒が理解しやすい簡潔な表現で解説を補している。
- ・イラストや写真を工夫し、生徒キャラクターなどを使用し楽しい紙面になるようにしている。
- ・大きく鮮明な写真や図版を多数掲載している。

総括

- ・基礎的、基本的な学習内容は本文ページでもれなく押さえ、その他の豊富な資料や問題解決例は本文ページと明確に区別している。
- ・問題解決が発達段階に応じて進めることができるよう配慮されている。
- ・豊富な資料や問題解決例、他教科との関連により、実態に合わせた指導の展開が行えるよう工夫されている。
- ・全体を通して記入例やワークシート例、話し合いの場面などが充実しており、主体的、対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。

## 内容

## &lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;

○実習題材では、製作・育成・制作の手順に沿って基礎・基本となる技能を学びながら、科学的な原理・法則を学べるように工夫されている。

○学習した基礎・基本となる知識や技能をふり返り、理解の定着を図ることができるよう配慮されている。

○別冊の「技術ハンドブック」で、各編における基礎・基本となる技能についてまとめることで、生徒が理解しやすく、技能の定着がしやすいように工夫されている。

○各編のまとめでは、技術の基礎・基本となる知識や技能について解答することで、確実に学力をつけられるよう配慮されている。

## &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;

○技術について調べさせたり、考えさせる活動を通して主体的で対話的な学びができるよう配慮されている。

○設計・計画のまとめをグループで発表し合うことで対話的な活動を通じて自らの設計をふり返り、深い学びを実現できるよう配慮されている。

## &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;

○社会で利用されている技術の写真やイラストを大きく配置することで、生徒に技術への興味・関心を引き出させるよう配慮されている。

○生徒がその学習で抱くであろう疑問や関心を対話式で提示することで、学習への意欲を喚起するよう工夫されている。

○「スゴ技」や「技ビト」のコラムを取り上げることで、生徒が生活や社会の中で使用される技術について興味・関心をもてるように配慮されている。

## &lt;技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫&gt;

○これまで学んだ技術の見方・考え方を働かせて技術の＋、－について考察できるように配慮されている。

○各編のまとめでは、技術の役割や活用についてまとめることで、これまでに学んだ技術の見方・考え方を働かせることができるよう配慮されている。

## &lt;よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫&gt;

○SDGsについて取り上げ、持続可能な社会の構築が考えられるように配慮されている。

○自然環境の維持や、持続可能な社会の構築に関する配慮がされている。

○地球環境を保全するための活動について、材料の再利用などを取り上げることで、生徒が環境保全について考えられるよう配慮されている

## 資料

○製作や育成・制作をしながら技能を学びやすいように、別冊でA・B・C・D編の基礎的な技能がまとめられている。QRコードを読み込めば、動画なども再生できる。

○写真や図などの資料が大きく見えて、なおかつ机の上で場所を取らない判型が採用されている。

表記・  
表現

○3観点に沿って編集され、生徒にも指導者にもわかりやすくなっている。

○色遣いやフォント等が工夫され、ユニバーサルデザインに配慮されている。

## 総括

○題材例の実習を基礎内容や問題解決に結びつけて学べるようにし、その学びが社会の実生活につなげられるような構成となっている。

○3観点を意識した指導と評価の一体化や技術の見方・考え方の指導が容易にできるよう様々な編集の工夫がされている。

内容

<知識及び技能が習得されるようにするための工夫>  
 ○文字だけの情報でなく、多くの図や写真などが使われている。  
 ○QRコンテンツがあり、関連した動画やコンテンツを見ながら知識、技能の習得ができる。  
 ○実験や観察が紹介されており、体験を通して知識を身につけることができる。  
 ○原理やしくみを学習した後、実際にどのような作業をすればよいのか解説がされている。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>  
 ○基本⇒問題解決⇒ふり返り の学習の流れが示されている。  
 ○学習した内容を生かして、問題解決学習に取り組めるような構成になっている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>  
 ○新しい技術等を評価し、今後も主体的に技術と関わっていくところを設定している。  
 ○学習した内容の最新技術を紹介している。  
 ○教科書の下段に豆知識をページごとに掲載している。

<技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫>  
 ○技術の最適化が取り上げられ、技術が生活、社会、環境と関係し、トレードオフの視点を考慮している。  
 ○PDCAサイクルを意識した構成になっており、ものづくりの順序と学習の順序を関連づけ、学習した内容が社会へと繋がるよう工夫されている。

<よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫>  
 ○SDGsの実現に向けて、生物育成の技術の役割、遠隔医療システム、様々な発電方法、イノベーション、スマートエネルギーシステム、等が取り上げられている。

資料

○学習方法がマンガで紹介されている。  
 ○キャラクターのコメントによって関心を引き出している。  
 ○写真や図などの視覚的にわかりやすい資料が多く掲載されている。

表記・  
表現

○UDフォントが使われている。  
 ○刺激の少ない色が使われ、單元ごとに色で分類されている。

総括

○PDCAサイクルを意識した構成となっており、課題の設定からふりかえりまでが1単元で実施できるようになっている。図や写真などが多く使われており、視覚的に理解が深まる工夫がされている。情報に関する技術の内容では、プログラミング等の掲載によって、教科書のページ数がかなり多くなっている。



書名 項目	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	発行者番号：2 発行者名：東書
内容	<知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○学習指導要領の趣旨を踏まえ、各分野の内容を系統的に学べるように構成されている。 ○知識 ……本文中の重要語句は、ゴシック体で強調（全体） ・各節の最後には、「まとめの活動」が設けられ、知識の定着を図っている。 ○技能 ……必ず身につけさせたい技能は、「いつも確かめよう」にまとめ、技能の定着を確実に習得できるようになっている。 ・発展的な実習例から難易度の低い実習例など、幅広く取り上げている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ・生活の課題と実践では、課題解決のプロセスに沿って実践できるように、実践例が問題解決の流れで示されている。 ・実習や体験学習では、学習の流れを示し、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。 ・実習例では、「私のオリジナル」として取り上げられ、生徒の創造性を引き出すことができるように工夫されている。 ・各編の導入では、見開きで構成され、写真やイラストなどを効果的に用いて興味・関心を高めている。また、見方・考え方の例を示してあらゆる視点から考えられるように工夫されている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ・ガイダンスでは、家庭分野の目標が写真とともに明記され、「何のために学ぶのか」を理解して学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・各節の始めに「目標」を掲げ、見通しと課題意識をもって取り組めるようになっている。 ・各節の最後には、「自己評価」の欄を設け、学びを見つめ直せるように工夫されている。 ・脚注では、身近な生活に関わる物事について豆知識「生活メモ」が掲示され、興味を持って読めるように工夫されている。 <実践的・体験的な活動の工夫> ・多様な実習例を取り上げ、学校の実態や生徒の個性に応じた学習活動が行えるように工夫されている。（調理の実習例…52題材、布を用いた製作例…37題材） ・家族や地域の人との関わり、高齢者との関わりではロールプレイング、消費者教育ではトラブルの対処法を考える漫画での活動例を示し、楽しみながら学習できるように工夫されている。	
資料	○学習効果……衣食住の生活内容が教科書の前半に位置づけられ、興味・関心を高める構成に工夫されている。 ・「学ぶこと」「目標」がはっきりと示され、見通しをもって学習できるように配慮されている。 ・写真やイラストなどの資料を効果的に用いている。また、防災・減災手帳などの付録が充実している。 ○資料の配置……巻末資料では、技術分野や他教科、道徳のつながりを学習内容別に示され、学習の広がりを持たせている。 ・本文の内容を裏付ける実験などの資料を取りあげ、科学的根拠に基づいて知識が習得されるようになっている。	
表記・表現	○安全性……巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう！」が設けられ、安全への意識を高めてから実習へ取り組めるように配慮されている。また、安全や衛生のポイントではマークがついており、生徒への意識が高められるようになっている。 ○タイトル、見出し等……誰でも見やすい書体が選定されている。目標などは、全て同じ位置に配置され、生徒が混乱しないように配慮されている。 ○用語、記号等……名称や用語を、巻末の「言葉のページ」で解説し、正しく理解できるように工夫されている。	
総括	○生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○小学校から中学校、高等学校へ、学習を引き継いで重ねられるようになっており、学習の系統性が踏まえられている。 ○資料や実習例、デジタルコンテンツなどが充実しており、生徒が学びやすいように配慮されている。また、記入例や話し合いの場面が充実し、主体的・対話的で深い学びができるように工夫されている。	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する</p>	<p>発行者番号：6 発行者名：教団</p>
<p>内容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;  ○問題解決的に知識・技能を身につけるために、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の3つの流れに沿って学習をくり返せるように工夫されている。  ・「見つめる」…生徒が身の回りの生活を見つめるきっかけと学習目的を明確に示している。  ・「学ぶ」…文章とそれに対応した図や資料で構成され、キーワードは青字で見やすくされている。  ・「ふり返る」…めあてに対応した項目で、生徒が自ら学習をふり返り、自己評価できるようになっている。  ○本文と資料が精選され、主体的・対話的で深い学びや実践的・体験的な活動を通して、知識や技術が身につけられるように工夫されている。  ○文章は、生徒が音読しやすく、理解しやすいように、一文一文を簡潔にまとめられている。文字は、従来よりも10%大きく、見やすくなっている。  &lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;  ○生活の課題と実践などの問題解決的な学習では、どのテーマも6ステップを設定し、決まった流れに沿って進めることで学習の定着化を図っている。  「問題発見」→「課題設定」→「計画・実践」→「評価」→「改善」→「次の課題」  ○実習や体験学習では、学習の流れが分かりやすく進めやすいように工夫されている。例えば、調理実習では、料理の分類マークや6つの基礎食品群マーク、分かりやすい手順の写真などがある。  ○実習例では、基本の作り方をもとに生徒一人ひとりが工夫を加えることができるように「私のアレンジ」として取り上げられている。生徒が生活を工夫し、創造性を引き出すことができるように配慮されている。  &lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;  ○ガイダンスでは、小学校の学習やこれまでの成長をふり返りながら、中学校での家庭分野の学習が見通せるように配慮されている。  ○地域や社会で活躍している人など、学習内容に関わりがある人からのメッセージを掲載している。  &lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;  ○調理実習や布を用いた製作では、練習題材から問題解決的な題材まで、学校の実態や生徒のレベルに応じた学習活動が行えるように豊富な実習例を掲載している。(調理の実習例…4 5題材、他防災時の調理例)  ○家族や地域の人との関わり、高齢者との関わりではロールプレイングなどの実践的・体験的なワークを多数掲載している。</p>	
<p>資料</p>	<p>○学習効果…章の導入では、テーマに沿って興味・関心をひく写真やイラストを見開きで掲載し、学習にスムーズに入れるように配慮されている。  ・本文のページの導入では、生徒同士や先生との会話の場面で中学生の生活の1コマを取り上げ、学習への意欲を喚起するように工夫されている。  ○資料の配置…食生活や衣生活のページでは、顕微鏡写真や実験の写真などを掲載し、生徒の科学的な理解を助けるように配慮されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○安全性…巻頭の「実習は安全に取り組もう」では、安全に実習を行うことができるように分かりやすく記述されている。また、事故防止や衛生のために気を付けるべき箇所には、衛生マークや安全マークが示され、生徒が注意しながら実習にとりくめるように配慮されている。  ○タイトル、見出し等…本文は、音読しやすさを考慮した簡潔な文章になっている。</p>	
<p>総括</p>	<p>○A編、B編、C編の3つの編で構成されており、それぞれの内容を相互に関連させて学ぶことができる。各章ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱を意識した構成になっており、見方・考え方を養いながら生活をよりよく創造していく力を育めるように配慮されている。  ○実習題材は、様々な生徒のレベルに対応できるように豊富なバリエーションを掲載している。また、生徒が興味・関心をひくような取り組みやすい題材に工夫されている。  ○指導と評価の一体化の工夫があり、育成すべき資質・能力の三つの柱と対応した3観点になっている。章末の「学習のふり返り」では、3観点に沿って学んだことを確認できる問題が掲載され、評価しやすく工夫されている。  ○教科書全体を通して、現代社会の課題を印象的な写真やわかりやすい図で取り上げられている。また、持続可能な社会の構築に向けて、SDGsなどの話題を取りあげ、生徒が関心をもって主体的・対話的に取り組めるように配慮されている。</p>	

書名 項目	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	発行者番号：9 発行者名：開隆堂
内容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識や技能に関する内容が厳選して的確に記述され、易から難へと確実な習得ができるように工夫されている。</li> <li>○学習のまとめりごとに、「ふり返り」「生活にいかそう」の欄が設けてあり、学習の自己評価ができるとともに、身についた知識や技能を生活に生かすことができるような工夫がされている。</li> <li>○調理実習では、「調理方法 Q&amp;A」が設定され、科学的根拠に基づいた知識・技能が図られるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめりごとに、その学習の総まとめ的な活用課題「生活にいかそう」を設定している。</li> <li>○「生活の課題と実践」については、多種多様な課題例が豊富で、生徒が自ら課題を発見し実践のイメージをもちやすいように工夫されている。また、生活の中から課題を見つけられるような本文の記述や課題が配置され、主体的に課題に取り組めるように工夫がされている。</li> <li>○アクティブラーニングを数多く取り入れ、生徒自らの考えを広げて深められるような工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学びが「見える」見開きの構成になっており、学習の流れがわかりやすくなっている。</li> <li>○家族・家庭生活、地域の関わりが具体的活動から理解できるように示されているとともに地域での生徒の生活と関連付けた学習が展開できるようになっている。</li> <li>○多種多様な職種で働いている人へのインタビューを取りあげ、キャリア教育につながるよう工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;実践的・体験的な活動の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目や実習・製作の頁に QR コードを記載することによって、より主体的に学習に取り組めるように工夫されている。(調理の実習例…4 1 題材、布を用いた製作例…9 題材)</li> <li>○実践的・体験的活動を通して、主体的・対話的活動や言語活動ができるように設定されており、深い学びへの工夫がされている。また、観察や実習の際の計画を立てる場面やレポート作成、考察・発表等の場面が学習過程の各所に設定されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果… 図版を大きく見やすくし、実習や製作などの手順は横流れのデザインで統一されており、生徒が主体的に学べるレイアウトになっている。</li> <li>・生徒が関心や意欲をもって主体的に楽しく学習を進められるように、学習をガイドする目立ちやすいマークやキャラクターが効果的に用いられている。</li> <li>・技能面の写真はわかりやすくていねいに表現され、拡大写真やイラストを添えるなどの配慮がされている。</li> <li>○資料の配置… 防災について、本文以外にも特設頁を設けて、日常的な備えの重要性などについて記述がされている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全性 … 実習の際の安全について、まとめて適する場所に配置され、「安全マーク」がついている。</li> <li>○タイトル、見出し等 … タイトル名が、学習がイメージできて課題意識を高める表現になっている。</li> <li>○用語、記号等 … カラーバリアフリーの観点から、図やグラフの輪郭や配色など、読み取りやすい工夫がされている。</li> <li>・重要語句は太字(ゴシック体)にして、標記のめりはりをつけ基礎的な理解を図る工夫がされている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3つの内容 A、B、C を関連づけて学習できるように工夫して構成され、無理なく基礎・基本をおさえた学習ができるように配慮されており、各内容・項目とも、基礎的・基本的内容の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開され、生徒の思考の流れに沿っていて、無理なく具現化されている。</li> <li>○生活の営みに係る見方・考え方の観点を、それぞれの題材の中で、実践的・体験的活動を通して、生活を工夫し創造する力が育まれるように構成されている。</li> <li>○奇数頁に、それぞれの内容に関連する写真と名称が記載されており、生徒の興味・関心を促す工夫がされている。衣食住などの内容を関連させて日本の伝統的な文化に関する内容が多数掲載されている。</li> <li>○持続可能な社会に向けた消費行動、環境への影響を考えることができ、消費生活に必要な情報の収集・整理ができるつくりとなっている。</li> </ul>	

書名  項目	<h1>NEW HORIZON English Course</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p><b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学びを生かし、入学から夏休みまでの期間を小中接続期として工夫されている。</li> <li>○Grammar for Communicationによる丁寧な文法解説と確認問題がある。</li> <li>○単元を貫く問いを示し、英語の見方・考え方を培う、加えて、概要から詳細の順に捉えていく文章の読み方を身につけるための「3段階読み」ができるようになっている。</li> <li>○Unit、Let's シリーズ、Stage Activity の3部構成で、Unit はそれぞれ3～5つの Part (Story、Scene、Read and Think) から成っており、途中に Mini Activity (Listen、Speak &amp; Write)、最後に Unit Activity (まとめの言語活動) がある。各 Unit の Read and Think では、「3段階読み」(概要→詳細→表現につなげる) が取り入れられている。Let's シリーズでは、日常の色々な場面におけるコミュニケーションの方法を学習できるようになっており、Stage Activity では、4技能5領域を統合的に扱い、自己表現活動ができるようになっている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Stage Activity では、テーマ別の自己表現活動ができるようになっている。</li> <li>○入試やテストで求められる、思考力・判断力・表現力(自分の意見を考え、相手に伝わるように的確に表現する)を養うように教科書が作られている。</li> </ul> <p><b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「CAN-DO リスト」で生徒自身が見通しを持ってふり返ることができる。</li> <li>○学び方コーナー(1年4時間、2、3年3時間)で、生涯にわたり学び続けるための基盤を作る。</li> <li>○地球市民としての心を育む、日本の伝統・文化を見つめ直す、異文化や国際社会について知る、今日的課題(道徳、人権、防災、安全など)に向き合うといった豊かな心を育む多様な題材が取り揃えられている。</li> <li>○「Mini Activity」「Unit Activity」「Stage Activity」という順序で、知識や技能を総合的に扱い、相手に配慮したコミュニケーションに結び付ける活動が取り入れられている。SDGs に関連した今日的課題や世界に目を向けさせる話題などが題材とされており、非常に工夫されている。</li> </ul> <p><b>〈聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Unit 本文の前に Preview が新設され、文法の「目的・場面・状況」を表す音と映像を見て「気づき」を促すようになっている。</li> <li>○Let's Talk (即興的なやり取り)、Let's Listen (バラエティ豊かな聞き取り)、Let's Write (適切な形式で書く活動)、Let's Read (目的に合わせた読む活動) が用意されている。</li> <li>○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」「Stage Activity」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」で発信語彙を太字で表記している。</li> <li>○各単元に「Key Sentence」と「Practice」を設け、目的や場面に合う文法が使えるようにしてある。単元末には、「Grammar for Communication」を設け新出文法と言語活動の関連が取り上げられている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には本文関連写真がある。また、「目的や場面、状況に合わせてコミュニケーションをしよう」や「学習の見通しを立てよう」があり、何を学習するのか見通しが立てられるようになっている。</li> <li>○各単元のセクションごとに QR コードが掲載され、単語や本文の文字とその音声、スライドアニメをスマートフォンなどで読み取ることによって再生できるようになっている。また、教科書の途中に英語の歌がある。</li> <li>○巻末には、発展的な読み物、語彙や英語表現、学習を振り返るための CAN-DO リストがある。また、「Word Room」では、ジャンル別の補充単語・表現が掲載されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生では、Let's Read2 は活字体を使用し、それ以外はブロック体(ユニバーサル書体)を使用している。2、3年生でも書く活動や Tool box ではブロック体を使用し、それ以外は活字体を使用している。</li> <li>○1年生 Unit6 以降、文字が小さくなり、行間も狭くなる。2年生以降は、さらに文字が小さくなる。</li> <li>○1年生で各単語にアクセント、2、3年生で発音記号が併記されている。また、発音記号を使用した音の分類がある。</li> <li>○教科書を A4 版化し、本編のページ数を現行と同等にし、イラスト、写真、図などを配置する余地を確保している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生では、入学(4月)から夏休みの期間(Unit0～Unit5)にかけて、小中接続期として、その内容を充実させている。</li> <li>○Preview が新設された。</li> <li>○「3段階読み」の工夫がされている。</li> <li>○「Preview」で単元の場面などを想起し、単元後に用意されている「Stage Activity」に向けて「Mini Activity」「Unit Activity」によって学習を積み上げていくようになっている。中学校入学して早期に「話す」「書く」活動を通して小学校で扱った表現を取り上げている。また、高校以降の学習の準備として、段階的に英文の語数を増加させる構成となっている。</li> </ul>	

書名  項目	<h1>SUNSHINE ENGLISH COURSE</h1>	9 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">開隆堂</div>
内 容	<p><b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「とびら」、「Scenes」、「Think」、「Retell」、「Interact」で構成されている。とびらでは、写真や簡単なリスニングで、題材への興味関心を喚起する。「Scenes」のマンガを見ながら新出表現を視覚的に理解できるように工夫されている。また、1～3までのストーリーはつながっており、単元で学ぶ新出表現をまとめて導入することもできる。「Think」では、まとまった会話や文章の中で新出表現を確認する。同時に、題材内容について深く考えることができる。「Retell」では、友だちとの協働学習を通して、写真を使って本文内容を自分の言葉で相手に伝える活動を行う。「Interact」では、新出表現を使う自然な場面設定の中で、即興のやり取りをする。さらにやり取りの要点を「書くこと」につながる仕組みになっている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書本文「Think」は、「Scenes」の場面で導入された新出文法に対応している。音読回数を色塗りで確認できる場所や、Q and Aを用いて、意図的な読解、リスニング活動が可能。「Share」では、題材についての small talk を行うこともできる。</li> <li>○本文学習終了後に設けられた「Retell」では、本文内容や学んだことを絵を用いて友だちに伝えるリテリング活動に取り組みやすい工夫がされている。メモ欄もあり、苦手な生徒でも取り組みやすい工夫がされている。学年レベルに応じて、登場人物になりきって話したり、学んだ情報を自分で整理して話したりする設定もある。</li> <li>○「Interact」では、その課で学んだ表現を使う必然性があり、友だち同士で話したくなるような場面やトピックを設定し、即興のやり取りを可能にする。また、自分の考えや意見を理由と共に発信することで、トピックに関しての自分の意見を深めることができる。最後に他者の意見も聞いたうえで、自分が最もよいと思う意見を選び、「書く」ことにつなげる。</li> <li>○「Our Project」では、協働学習中心で、プレゼンテーション原稿を完成させていく。モデル文を聞いて、読んで理解→マッピングなどを使い、即興で考え→書いて正確性をあげ→友だちとシェアすることで完成度を上げ→発表→作成での過程や友だちの発表を聞いての感想など、次に生かすための工夫もされている。</li> <li>○「Reading」は3部構成になっている。1部では、写真を掲載し、簡単な質問で興味関心や内容の予測がつくよう工夫されている。2部では、背景情報+3種類の問い (check, guess, share) で、詳細を読み込む。3部では、読んだ内容を整理し、感想や概要説明などを行い、自己表現につなげる。</li> </ul> <p><b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Retell」、「Interact」、「My Project」では、協働学習によるアウトプット活動となる。スピーチなども自分で書いて終わりではなく、友だちとの話し合いの中で改善していく時間があり、「Interact」では、友だちとのやり取りを通して、自分の考えを書く活動や、「Retell」では、相手を意識した本文のリテリングをする必要があり、一人では完結しない活動を継続することで、主体的なコミュニケーション活動が可能となる。</li> </ul> <p><b>〈聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Try→Interact→Our Project の3部構成で即興でのやり取りに積極的に取り組める工夫がされている。Try では、既習表現や語彙を使って、ペアで行う small talk の話題を掲載している。Interact では、与えられた場面やトピックで行う即興やり取りを掲載している。Our Project では、原稿を読み上げるのではなく、メモや作成したマッピングをもとに発表活動を行う。友だちの発表を聞いた後質問したり、感想を述べたりする場面も設けている。</li> <li>○Our Project で到達目標を設定し、学ぶ動機づけが可能となる。教科書を教える授業から、教科書で教える授業に変革する。</li> <li>○言語活動に必要な語彙が「Word Box」「Steps」等に取り上げられている。「New Words」の発信語彙は太字、受容語彙は一般語彙と感嘆語、短縮形等に分けて表示している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年に合わせて身近な題材から社会・世界全体の題材へ移行。とびらでは、写真を掲載し、興味関心を喚起している。CLIL やカリキュラムマネジメントに対応した構成になっている。SDGs に関連した話題も豊富に掲載している。</li> <li>○各単元のセクションごとに QR コードが掲載され、本文の音声とスライドをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インクルーシブ教育の観点から1年生前半→小学校の教科書と同じフォントを使用。後半からは一般的な活字に近いフォントを使用。</li> <li>○各学年共通でアクセントは各単語に水色で付記し、発音記号は巻末に記載してある。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出表現の提示は、小学校と同じプロセスで導入されている。新出文法導入から定着させるに至るまで、常に対話ややり取りの中で活用できるような場面設定や活動、発問が掲載されている。特にリテリングや即興での対話など、授業で積極的な取り組みが難しかったアウトプット中心の授業展開が可能となる。</li> </ul>	

書名 項目	NEW CROWN English series	15 三省堂
内 容	<p> <b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b>            ○「Lesson」「Take action!」「Project」の3部構成で、「Lesson」は「GET」と「USE」に分かれている。            ○各単元の「Get」における「Point」では、その解説文と共に文法事項や文構造を整理・理解させるようになっている。「Drill」において、「Point」の文の語句を入れ替えながら繰り返し練習し、基礎的な力を身につけさせる仕組みとなっている。            ○「Get」で学んだ知識を用いて、「Listen」で聞く力を、「Speak」「Talk」「Write」で新出文法を含む英文を使って発信する力を身に付けさせるようになっている。「Get Plus」では、実際のコミュニケーションで活用する力を養うようになっている。            ○Take action!では、日常のいろいろな場面におけるコミュニケーションの仕方を学習させ、Projectでは、4技能5領域を統合的に扱い、自己表現活動を行えるよう工夫されている。         </p> <p> <b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b>            ○「Lesson」ごとの「GET」で文法事項などの基礎的・基本的な知識を身につけた後、各単元の「Use」では、意見・説明・物語文で構成された「Read」で情報を整理し、「Speak」と「Write」で目的や場面、状況に応じた自己表現活動がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。         </p> <p> <b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b>            ○各 Lesson の最初のページには「この課で学ぶこと」と題して言語材料や目標が示されており、生徒が見通しを立てられるようになっている。For Self-study で辞書の使い方など、学び方を示している。            ○「Use Speak」や「Use Write」、「Project」において目的や場面・状況に応じて相手意識を持たせ、互いを認め合いながら表現できるようになっている。「ことばを使う」、「かかわる」、「考える」、「学ぶ」を軸に選ばれた異文化理解や伝統文化等の題材を通して、SDGs等の現実の様々な課題に対応できるように工夫されている。         </p> <p> <b>〈聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫〉</b>            ○各「Lesson」の「GET」に「Listen」、「Speak(Talk)」、「Write」を設定し、「聞く」「話す」「書く」活動を配置して基本文の定着を図れるようになっている。            ○「GET Plus」における場面設定を明確にした活動と、各ページの「文法のまとめ」における新出文法との関連付けがされている            ○言語活動において必要な語彙が、「Word Bank」「Idea Box」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」において、発信語彙を太字で示している。         </p>	
資 料	<p>           ○巻頭には「この教科書のしくみ」とともに学びのサイクルや身に付けたい力を視覚的に意識できるようになっている。            ○巻末には、各学年とも「いろいろな単語」として、表現活動に活用できる、場面や分野ごとに分類された非常に多くの語彙リストがある。また、「会話表現」、本編のTalkで活用できる「ロールプレシート」を掲載し、発信力を高めるよう工夫されている。            ○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声や実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。         </p>	
表記・ 表現	<p>           ○1年生で各単語にアクセント付記、2、3年生で発音記号が併記されている。         </p>	
総 括	<p>           ○各「Lesson」は、学習の見通しを立てる「とびら」、基礎・基本を習得する「GET」、習得したものを活用する「USE」、身に付けたことを確認する「まとめ」から成り、4技能を総合的に育成する構成となっている。1年生の「Lesson」の導入は、小学校で体験した場面での対話や発表を聞いて学びを振り返る設定になっており、小学校との接続を意識した内容となっている。また、3年生の最長の読み物教材は高校で扱われる英文を意識した語彙数となっている。         </p>	

書名 項目	ONE WORLD English Course	17 教出
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Lesson は Part1～3→Review→Grammar で構成されていて、基礎・基本から応用へ確実に学びを積み上げられるようになっている。</li> <li>○ 各単元の「Key Sentence」では、新出文法を使った例文が示され、その右側の「Notes」では意味・形・用法が説明されている。また、「Tool kit」では、例文で使用されている語句を入れ替えながら練習し、新出文法の定着が図れるようになっている。</li> <li>○ 各レッスンの最後には「Review」「Task」「Grammar」の3つのコーナーがあり、本文の内容や言語材料をじっくりと理解し、基礎・基本の定着を図ることができる。</li> <li>○ 各単元の「Think &amp; Try!」では、当該単元で学習した本文の一部を活用し、話したり書いたりする表現活動が設定されている。「Tips」のコーナーでは、5領域それぞれの技能を高めるためのコツが紹介されている。</li> </ul> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Task では、本文の内容とは異なる場面の英語を聞いて、その内容について話したり書いたりする統合的な学習ができるよう設定されている。</li> <li>○ Useful Expressions では、スキットなどを通して、実践的なコミュニケーション活動を通じて、英語で表現する力を育むことができる。</li> <li>○ Project では、5領域を総合的に活用して課題解決に取り組む活動である。</li> <li>○ 単元の各「Part」で目的・場面・状況を捉え理解を深め、情報整理の「Review」、発表の「Task」、自己表現の「Think &amp; Try!」がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Project」では、既習の知識・技能を総合的に活用し、グループなどでの協働学習を通して、課題を達成しながら、生徒自身の主体的な思考判断を促す表現活動となっている。SDGs との関連も含めて世界の多様なあり方と課題について自分のこととして向き合う題材が取り上げられている。</li> </ul> <p>〈聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 即興で話す力を見つける目的に特化した Activities Plus を掲載。帯活動での使用に最適。既習の言語材料を使用し、3年間通しての活用が可能。付属の赤シートやQRコードからアクセスできる音声を使って、話すこと（やりとり）の力を引き出し、話題を広げて話すなど、生徒自身が自由に活用できるようになる工夫がある。</li> <li>○ 巻末には「CAN-DO 自己チェックリスト」があり、各領域の目標ごとに関連単元等が示されている。単元末に単元目標の達成目標を振り返ることができるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年：すごろく、自己紹介用ネームカード、2年：説明ゲーム用カード、3年：即興スピーチ用カードが巻末についている。</li> <li>○ 「How to Study」では、勉強の仕方を掲載し生徒が活用できるようにしている。</li> <li>○ 巻頭には学びの流れが示され、学習の見通しが立てられるような工夫がされている。巻末の「Activities Plus」では、マスキングシートを活用して、重要語句や文、表現を学習できるように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生初期からユニバーサルデザインフォント、ブロック体、ローマン体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセントと発音記号が併記されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 即興でのやりとりを授業の中で取り組みやすいような工夫が見られる。題材も学年の発達段階を考慮した興味関心を引くようなものを多数掲載している。</li> <li>○ 1年生では小学校で学んだ表現をゲーム等の活動で復習する「Springboard」があり、小学校との接続が意識されている。</li> <li>○ 各単元において三つの「Part」を通して学んだことを巻末の「Activities Plus」を活用して確認、定着させ、「Project」において5領域の統合的な活動を通して自己表現をする構成になっている。</li> </ul>	

書名  項目	<h1 style="margin: 0;">Here We Go! ENGLISH COURSE</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光村</div>
内 容	<p><b>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Unit は、「扉」「Part1～Part3」「Goal」で構成され、各 Part に「Listen」「Speak」「Write」の言語活動があり、本文の概要を捉え、本文における基本本文や語彙の使用場面や状況を意識しながら、基本本文の習得を行うよう配列されている。</li> <li>○各 Unit の最後にある「Goal」で、当該 Unit の学習内容を活用したアウトプット活動が用意され、知識・技能の統合的な活動に取り組むことができる。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力は、表現力等を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の学期末に既習の知識・技能を活用して取り組む「You Can Do It!」は、5領域を統合した言語活動である。目的や場面・状況に応じた適切な表現活動を行うことで思考力・判断力・表現力の育成に適した教材である。</li> <li>○巻末の帯教材「Story Retelling」は、各 Unit のイラストを使用し、絵の描写や既習のストーリーの内容を継続的に行い、即興力を高める教材である。</li> </ul> <p><b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年全体の目標、各教材の目標が CAN-DO リストと関連付けされ明示されている。各 Unit の「Goal」と「You Can Do It!」には「振り返り」が設けてあり、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○「Goal」の「Speaking」では、グループ活動による対話的な学習や発表の場も設定されている。</li> <li>○多様な考え方の理解、公正な判断力を養う教材や文化、人権、国際理解等 SDGs への対応も含め幅広い題材を取り上げている。</li> </ul> <p><b>〈聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Unit の最初で、目標 (CAN-DO リスト) を確認し、左ページで本文を通して「聞く」「読む」の活動、右ページで「Listen」「Speak」「Write」の言語活動の構成は、全学年が統一されている。</li> <li>○各 Unit が、5領域がバランスよく学習できるよう配列されている。各 Unit の右ページの「Speak」「Write」では、自己表現活動やペア・グループ活動を意図した活動となっている。</li> <li>○各 Unit の Part では、一貫して「聞くことで音と文字を一致させ、内容についての質問、音読」の学習の流れが示されている。</li> <li>○各 Unit に関連付けされた Active Grammar では、既習の文法事項の定着を図るため使用場面を意識し、わかりやすくまとめられている。</li> <li>○巻末の Let's Talk は、帯教材として、全学年共通の3つのテーマにそった「話すこと(やりとり)」を段階的、継続的に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○帯教材「Active Words」は言語活動で活用できる語彙がカテゴリーごとに掲載されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には、各学年の目標が示され、「英語の学び方ガイド」による学習の進め方があり、「Your Coach」では、さらに技能別の具体的な学び方により、自律的学習者の育成につながるよう配慮されている。</li> <li>○各学年とも学期に1曲ずつの英語の歌があり、曲の説明だけでなく、曲に関連した質問も工夫されている。</li> <li>○各 Unit の Part ごとにQRコードが掲載されており、本文スライドアニメ、リスニング音声、実写映像、参考ウェブサイトが視聴できるよう工夫されている。</li> <li>○各学年の巻末に「英語のしくみ」があり、英語の文の構造を視覚的にとらえやすく工夫されている。</li> </ul>	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の Let's Be Friends. まで手書き体表記であり、以降ブロック体となっている。2・3年は、本文がセリフ体、本文以外の Listen Speak Write 等はブロック体を使用している。</li> <li>○1年で各単語のアクセントのみの表記、2・3年は発音記号との併記となっている。</li> <li>○各 Part の最後にリズム、イントネーション等音声変化について掲載されている。</li> <li>○「Let's Read」の末尾に単語の総数が記されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文は4人の中学生を中心に3年間のストーリーで構成されている。交流を通して成長していく物語であり、自分との比較や共感する部分等発達段階に応じた内容となっている。</li> <li>○小中の円滑な接続に配慮した「Let's Be Friends!」は小学校での学習内容の振り返りを中心に「聞く」「話す」「書く」ことを学習する構成となっている。</li> <li>○「Your Coach」では、領域別の学習の取り組み方のコツを示し、継続して英語学習を行えるよう配慮している。</li> </ul>	



<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>BLUE SKY English Course</p>	<p>61</p> <p>啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p>(知識及び技能が習得されるようにするための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各単元の「Target」では新出文法を含んだ例文が解説と共に示されている。「Unit」は「Part」、「Read &amp; Think」、「Express Yourself」から成っている。各「Part」は、学習の流れが統一されており、4技能を使い、一貫した形で新出事項を理解させるようになっている。「Let's」シリーズでは、「話す」「聞く」「読む」の各技能を、身近な場面や状況に設定して学習できるよう工夫されている。Projectでは、4技能5領域を統合的に扱い、自己表現活動を行わせるようになっている。</li> <li>○ 「Targetのまとめ」では、文法の要点を整理して示し、ペアワークが組み込まれている。</li> </ul> <p>(思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Unitの扉で示されたテーマにそった対話文やスピーチなどが、Partで比較的短い英文で書かれている。さらにRead &amp; Thinkで、本文の内容に関する自分の意見や考えを表現する設問が用意されている。</li> <li>○ Unitの終わりにあるExpress Yourselfでは、自己表現活動を行い、対話活動等につながるよう設問が用意されている。</li> <li>○ 学期末ごとにProjectがあり、4技能5領域を統合した発展的な学習があり、グループ学習を通して、思考力、判断力、表現力を高めることができる。</li> </ul> <p>(学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材として①「外国について知る、日本について知る」②「今日本や世界で起こっていることを知る、人間のいとなみを知る」の大きな2つのジャンルで構成されており、視野を広げ積極的に世界とつながろうとする心を育てるように工夫されている。</li> <li>○ リアルな題材を扱うことで、生徒の興味・関心を引き出し、「伝えたい」「読みたい」という思いを引き出そうとしている。</li> <li>○ 各学年必要な場所に「付録」があり、学習に役立つコツなどを紹介し、生徒の学びを支えている。</li> <li>○ 他教科と関連する題材、人権、福祉、自然や環境などSDGsとの関連する題材に触れることで、自国だけでなく世界にも目を向け、人々が抱えている課題に向き合う態度の育成にもつながっている。</li> </ul> <p>(聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各Unitには、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」が設定され、基本本文を中心にした言語活動を行うことができる。</li> <li>○ 各UnitのRead &amp; Thinkでは、概要把握→細部の把握→自己表現という3段階で読み取り活動を行うことができるようになっている。</li> <li>○ 「Target」の「Let's Try」では、ペア学習、グループ学習、発表による言語活動に取り組むことで、新出文法を振り返ることができる。</li> <li>○ 「Let's Talk」では、身近な場面での会話「Let's Listen」では身近な場面での聞き取り、「Let's Read」では、読み物教材を通しての発信活動があり、各技能を集中して取り組めるようになっている。</li> <li>○ 3年生後期では、ディスカッションや長文作文の活動を設け、高校での学習を意識できるようになっている。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭には、本文に関連した写真があり、「教科書の使い方」では、各活動の進め方等分かりやすく記されている。</li> <li>○ 各Unitの「Express Yourself」と「Let's Talk」に対応した「Word Box」が巻末にある。表現活動や発信活動が行いやすいよう語彙数も豊富である。</li> <li>○ 2年の教科書から各ユニットの最後にMore Informationというページがあり、Unitで学習するテーマや内容について深く知ることができる。</li> <li>○ 各Unitには、QRコードが掲載され、単語、本文を文字でと音声で聞くことができる。和文の表示・非表示もできる機能がある。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生では「Let's Read」以外は、UDフォント、2年生は本文は活字体と手書き文字等はブロック体、3年生は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。また、ページ下部に発音記号を使用した音の分類や音読のポイント等がある。また、ページの下部に発音、イントネーション、音声変化や音読のポイントが記されている。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業で取り組む内容量が多すぎず、振り返りや復習などを教師が授業に盛り込みやすい。また、Unitで扱う題材に対しての情報量が豊富で生徒の興味関心を喚起することができる。</li> <li>○ 年3回設定されている「Project」は、ペア・グループ学習、発表などの言語活動は、例文も掲載されているため取り組みやすい。</li> <li>○ 3年生では、長文や「Further Study」は、高校でよく扱われるディスカッションや長めのライティングを扱っており、高校の学習へのつながりを意識している。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新訂 新しい道徳</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           2 東 書         </div>
内 容	<p>         〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉          ○28 テーマ 35 時間で構成され、十分な話し合い等の時間を設けるために 1 教材に問いが 2 つ（「考えよう」・「自分を見つめよう」）に精選されている。各教材において学習指導要領の四つの視点や、ねらいとなるテーマを示し、1 時間の流れがわかりやすいように工夫されている。          ○自己を見つめるため、教材途中につぶやき欄が設けられ、また、教科書の巻末には、学期ごとに、自分の学びを振り返り、考えを深めるための「振り返りシート」が付属されている。          ○他者理解を促すため、一つの事象について友達と意見を交換し、問題解決を図る教材が配置されている。          ○「自分を見つめよう」では、課題を自分のこととして捉え、自己の生き方への考えを深めさせるための工夫がされている。          ○道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度に関する問いが設けられ、補助教具として、各学年巻末に「心情円」「ホワイトボード」を用意し、生徒の気持ちを可視化・他者理解ができるように工夫されている。          〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉          ○喫緊の課題である「いじめ」や「いのち」について、それぞれ複数教材を組み合わせたユニットを各学年に配置し、重点的に扱えるように工夫されている。          ○防災、キャリア教育、医療、環境、人権、国際理解、児童労働など、現代的課題に関する考えさせる教材が全体の約 70%と多く配置されている。          〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉          ○22 の内容項目は全学年ですべて扱い、各学年 13 の重点項目が設定されている。          ○小学校道徳との連携を図るため、第 1 学年では小学校定番教材を配置している。          〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉          ○「問題解決的な学習」、「体験的な学習」において、教時間にわたり道徳的価値の理解や登場人物の心情理解を深める教材が設定されている。          ○新聞・漫画教材を利用した多面的・多角的に考える手立てが工夫されている。          ○「ACTION」のコーナーでは、役割演技等を通して、考えを深められるように工夫されている。       </p>	
資 料	<p>         ○現代的な問題を扱う割合が非常に高く、身近な内容かつ共感できるような教材が多く配置されている。          ○生命・社会に関する教材も多く、現代社会における様々な課題を扱っている。       </p>	
表記・表現	<p>         ○AB 版 196 ページ（第 1 学年）          ○ユニバーサルデザインフォントが採用され、余裕のある文書構成となっている。          ○教材ごとに、写真・絵が多く配置され想像しやすい構成になっている。          ○中学生にとって親しみやすい口語体の教材を多く使用している。       </p>	
総 括	<p>         ○教科書サイズは AB 版とやや大きめのつくりになっている。教材資料としては、現代的な問題や生命、社会等を扱う割合が高く、現代社会の様々な課題に向けられたものが多く配置されている。その中でも喫緊の課題である「いじめ」や「いのち」に関しては、複数教材を組み合わせたユニットが組み込まれている。それぞれの教材には、「考えよう」、「自分を見つめよう」の 2 つの設問があり、精選された授業展開の構成になっている。学期末用の振り返りシート、心情円、ホワイトボードが付属され、自己を見つめ、考える手立てが施されている。       </p>	

書名 項目	中学道徳 とびだそう未来へ	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材に、学習指導要領の四つの視点を表すマークが付けられ、一覧表にも記載されている。教材の冒頭には「導入」が設けられ、学習の目的をつかんで学習が進められるように工夫されている。</li> <li>○生徒の生活実態を描いた等身大の教材、現代的な課題を扱った教材、人物を扱った教材など、自分を見つめられるのに適した多種多様な教材配置がなされている。教材冒頭の「導入」で生徒の経験や考えを想起させ、教材末の「学びの道しるべ」で自己を見つめることができるような問いが工夫されている。</li> <li>○巻頭のオリエンテーションページでは、多様な考えを知り、考えを深めることが例示され、巻末には学期末に行う振り返りシートも付属されている。</li> <li>○教材末の「学びの道しるべ」の3つの問いを通して、段階的に道徳的諸価値の理解を深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるように工夫されている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめや差別のない社会について深く考える教材」、「生命の尊さについて深く考える教材」では、複数教材を組み合わせたユニットが配置されている。</li> <li>○教材間にコラムを設け、現代的な課題に対して深く考えられる工夫がなされている。</li> </ul> <p>〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校での学習を踏まえながら、中学生の発達の段階に即した内容設定が工夫されている。</li> <li>○系統的な学びを深める教材を配置し、学年間の連携に配慮されている。</li> <li>○「まなびリンク」マークから専用のwebサイトにアクセスすることで、深く考えさせる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニット教材を設け、多様な視点で深く考える工夫がなされている。</li> <li>○教材ごとに「学びの道しるべ」として問いを3つ設定し、考え・議論する手立てが施されている。</li> <li>○問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材が配置されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人物の生き方から学ぶ教材や各地域に関わりの深い教材などが多く配置されている。</li> <li>○社会参画に係る教材が多く配置されている。</li> <li>○「まなびリンク」マークがついている教材は、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができよう設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5版 218ページ（第1学年）</li> <li>○視認性・可読性が高いユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>○教材内容の理解を助けるために、挿絵・写真・漫画・図・グラフ等適所に配置されている。</li> <li>○教材内容や挿絵等は、性別の偏りがないように配慮されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材内容の偏りが少なく、現代的な課題やスポーツに関すること、伝統・文化に関することなど、バランスよく配置されている。その中の「いじめ」に関する教材、「生命の尊さ」に関する教材では、複数教材を組み合わせたユニットが配置され、コラムとともに深められる構成になっている。各教材には「学びの道しるべ」が設置され、考え・議論できるような構成になっている。学期末用の振り返りシートが付属され、自己を振り返る手立てが施されている。</li> </ul>	

書名 項目	中学道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光村
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間を3つのシーズン（まとまり）に分けられており、各シーズンでは複数の教材を組み合わせたユニットも配置されている。教材では、登場人物への自我関与、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を織り交ぜながら、自覚を深められるように工夫されている。各学年4か所に「深めたいむ」を設定し、道徳的価値の実感を伴って考えられるように工夫されている。</li> <li>○1年間の最初の教材と最終の教材を共通で用意し、学びの見通し・目的意識を持つことから、自分の中で生まれた変化を見つめられるように工夫されている。</li> <li>○1時間の授業での学びを記録することができるポートフォリオ形式の「学びの記録」が付属されている。</li> <li>○各教材に「てびき」が設定され、「考えよう」、「見方を変えて」、「つなげよう」の発問によって、多面的・多角的な見方や考え方の育成かつ日常生活へのつながりまでが工夫されている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に「生命の尊さ」、「いじめ問題」をテーマとした教材が複数関連付けられたユニットが配置されている。</li> <li>○1学年4か所に「深めたいむ」が設けられ、自分に引き付けて考えることができるように工夫されている。</li> <li>○教材後にコラムを設け、自分の問題としてとらえられるように工夫されている。 〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</li> <li>○年度当初に自分を見つめられるような教材配置になっており、1年間の中でも段階的に深く考えさせられる工夫がなされている。</li> <li>○教材をユニットごとのテーマで分けられ、最初のテーマで小学校からの連携が図られている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに「てびき」を設け、時に協働しながら多面的・多角的に物事をとらえ考えられる工夫がなされている。</li> <li>○最初の教材において、話し合い方が例示され、議論する手立てが工夫されている。</li> <li>○教材間に設定されている「深めたいむ」では、多くの考えるポイントが組み込まれ、自分のことと置き換えて考える工夫がなされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1ページに入っている情報量はやや多く、挿絵・写真・漫画・図などさまざまな視覚的配慮がなされている構成になっている。</li> <li>○現代的課題に関する教材の割合が全体の約80%と非常に高く構成されている。</li> <li>○QRコードから、学習の参考となる資料を見ることができるよう設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5判 197ページ（第1学年）</li> <li>○ユニバーサルデザインの観点からみて、十分な配慮がなされている。</li> <li>○年間で3つのくりになっており、色別で分けられ配置されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間を3つのシーズンに分けられ、その中でもユニットごとにテーマが配置され、1年間の流れが練られた構成となっている。最初の授業では、話し合いの方法が例示され、教材ごとに「てびき」が設けられ、考え・議論する手立てが施されている。現代的な課題に関する教材の割合が非常に高く、全学年に「生命の尊さ」、「いじめ問題」をテーマとした教材が複数組み込まれユニットが配置されている。ポートフォリオ形式の「学びの記録」が付属され、自己を見つめる工夫がなされている。</li> </ul>	

書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	116 日 文
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本冊(教材)と別冊(道徳ノート)の分冊構成である。教材ごとに「考えてみよう」を設置し、考え、議論し、ねらいに迫ることができるようにしている。道徳的価値の理解を明確にするために、学習指導要領の四つの視点を、色と形から見分けられるように工夫されている。</li> <li>○巻頭の「道徳科で学ぶこと」では、学習指導要領の四つの視点の関わりを図を用いて、理解しやすい形で説明している。</li> <li>○教材ごとに「自分に+1」を設置し、授業で学んだことを前向きに自分に生かすことができるように工夫されている。</li> <li>○「道徳ノート」への記入内容は、生徒の「心の記録」となり、自らを振り返ることができる。ドット罫にしたため、文字だけに限らずイラストや図など、自由な表現方法で考えをまとめることができ、発言することや書くことが苦手な生徒への配慮もある。1時間ごとの記録に加えて、巻末には学期ごとの振り返り、保護者記入欄があり、定期的な成長記録ができるとともに、保護者が生徒の学びの成長を確認でき、学校と家庭との連携を図ることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ」防止に力を入れ、「いじめ」について直接的・間接的に扱う教材で、1年生は年3カ所、2・3年生は年2カ所配置され、集中的に学び、より多面的・多角的に考えられるよう構成されている。また、生徒にとって身近な問題を扱い、自分ごととして捉えられるような教材が掲載されている。</li> <li>○持続可能な社会の創造を目指し、地球の未来について多面的・多角的に考えられるよう、ESD(持続可能な開発のための教育)、SDGs(持続可能な開発目標)などに対応する幅広いテーマを取り上げられている。また、社会のあり方について考える「よりよい社会と私たち」というユニットも組み込まれている。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○系統的・発展的な学習ができるよう、キャリア教育の理念をもとに、1年生「自己感情の育成」2年「自己有用感の育成」3年「誇りと志のある生き方の育成」と、各学年のテーマを設定されている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳ノートでは、左側には自分の意見、右側には友達の意見の記入欄を設置し、それぞれを対比し、生徒が主体的に学習を広げたり、深めたり、積極的に話し合いを進めたりできるように配慮されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先人たちや今を生きる人たちの様々な生き方を取り上げ、成功談だけでなくそれぞれの苦悩や努力から、誇りある生き方について考える教材を掲載されている。</li> <li>○定番教材から、漫画教材などの独自の教材まで、よりよい教材を厳選し、感動・共感・思考を効果的にもたらず誌面で構成されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5判 198ページ(第1学年) ○道徳ノート 42ページ</li> <li>○わかりやすく規則的なページ構成になっている</li> <li>○中学校で学習するすべての漢字に振り仮名をつけている。</li> <li>○1教材に対し1ページの記入欄が設けられている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本冊「あすを生きる」と別冊「道徳ノート」の2冊になっている。「考えよう」「自分に+1」設置し、学習を広げたりできるようにしている。「道徳ノート」では、発問欄が空欄になり、教科書に記載された発問に限らず、授業スタイルに合わせて柔軟に対応できるように工夫されている。日常生活や他教科等にも広げるさまざまなコラムや地域に関する内容も掲載されている。</li> </ul>	

書名 項目	新・中学生の道徳 明日への扉	224 学 研
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えを深める4つのステップ「見つける・考える・話し合う・生き方につなげる」が、巻頭に具体的に示されており、自分のこととして考えられるように工夫されている。また、道徳的価値の理解を明確にするために、学習指導要領の四つの視点を、色と形から見分けられるように工夫されている</li> <li>○教材の前に主題名を示さないことで、特定の価値観を押しつけず、生徒自らの気付きや考えを促す一方で、道徳的価値にせまられるようにするための「キーフレーズ」が記載されている。</li> <li>○教材ごとに「考えよう」で問いかけ、これからの生き方について考えるきっかけとなるよう工夫されている。</li> <li>○巻頭の「マイプロフィール」で今の自分自身を見つめ、巻末の「心の四季」で心の成長を振り返り、最巻末の「学びの記録」で、学期ごとに学びについて振り返ることにより、年間を通して自分の成長を客観的にとらえることができる紙面となっている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止につながる教材は、様々な内容項目から自他の生命を尊重し、他者と共によりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるようにしている。特設の「クローズアップ」で、「生命の尊重」「いじめ防止」につながる、「メンタルトレーニング」「アンガーマネジメント」「自己肯定感」の3つのテーマを扱っている。</li> <li>○SDGs(持続可能な開発目標)とキャリア教育については、全学年でユニット学習としている。視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野で考えさせる授業を展開できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階を考慮し、1年生「仲間と生きる」2年生「社会に生きる」3年生「世界で生きる」と、学年ごとにテーマを設定し、特定の内容項目と重点的に連動して、よりよい生き方についての考えを進展させていく教材構成にされている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物だけでなく、絵や写真、図やグラフ等のバラエティに富んだ素材で構成した新感覚教材も豊富で、生徒の自由な発想を促し豊かな学習を展開することで、生徒が自ら感じ、考え、話し合いたくなるよう配慮されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な分野で活躍する今を生きる人たちの教材では、身近な出来事に関心をもち、自己を見つめるように工夫がされている。</li> <li>○人生の足跡からたどる学びの宝庫、先人たちの教材では、よりよく生きることの魅力や意味を考えられるようにしている。感動・共感から道徳の学びへとつなぐ定番教材も掲載されている。</li> <li>○QRコードから、学習の参考となる資料を見ることができるよう設定されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AB判 186ページ(第1学年)</li> <li>○ワイドなAB判を採用し、写真や図版を効果的に用いられている。</li> <li>○教材中の問いに対して自分の考えを記入する書き込み欄を設けられている。</li> <li>○教材ごとに学習指導要領の四つの視点を色分けして示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えを深める4つのステップ「見つける・考える・話し合う・生き方につなげる」を明示している。道徳ノートはないが、特設ページ「深めよう」には、ステップごとに具体的な例を提示してあり、書き込みができるようになっている。また、「深めよう」が設置されていない教材にはメモ欄が設置されていて、自分の考えを書き込むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<p style="text-align: center;"><b>中学生の道徳</b> <b>中学生の道徳ノート</b></p>	<p style="text-align: center;">232 廣あかつき</p>
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本冊と別冊（中学生の道徳ノート）の2冊構成である。教材ごとに、考えるポイント「学習の手がかり」を明示してある。また、道徳ノートには、項目ごとに、理解を深めるための文章及び詩、イラスト等が掲載してある。また、道徳ノートの後半に、感想等を記入する「学習の記録」が用意してある。</li> <li>○巻頭に自分を見つめ、考え、のぼすことに関する詩と道徳の学習のしかたを説明した内容を掲載している。学習のしかたが理解しやすくなり、自己の生き方への考えを深められるような構成になっている。</li> <li>○道徳ノートの巻末に、「心に残っている授業の記録」の欄があり、1年間の学習を振り返り、もう一度自分の生き方について考える機会が与えられている。</li> <li>○教材ごとに、問いを2～3用意している。あわせて、自分自身の問題として考えてさせる等、考えを広げる・深めるための設問を用意している。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報モラル、人権問題・国際協力等、現代的な課題についての教材を多く取り上げ、さまざまな分野の課題に対して取り組みやすくしている。</li> <li>○巻末に、いじめ・情報モラル・生命倫理等の課題についての資料を、学年ごとに用意し、発達段階に応じて、取り組みやすくしている。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本冊のタイトルを「自分を見つめる」「自分を考える」「自分をのぼす」とし、発達段階に応じて、取り組むべき内容を示している。</li> <li>○巻頭に、タイトルにリンクした内容の説明文を掲載し、一年間の道徳の時間のねらいが理解しやすいようになっている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに、「考える・話し合う」として、問いが用意されており、学習を深めていく方向性がはっきりしている。</li> <li>○課題を自分のこととして捉え、考えを深めていくための問い「考えを広げる・深める」が、教材ごとに設定してある。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに、ゲーテ等先人たちの名言等を載せ、考えを深めるヒントとしている。</li> <li>○関わりのある補助教材を見られるデジタルコンテンツが用意されている。</li> <li>○巻末に、教材名、内容項目、現代的な課題等とのかかわりについてまとめた一覧表を載せている。特に現代的な課題等との関わりでは、生命・いじめ・情報に関する教材を明記している。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AB版 186ページ（第1学年） ○道徳ノート 52ページ</li> <li>○AB版のため、紙面が広くゆったりとした構成になっている。</li> <li>○教材ごとに、視点の内容と関連する道徳ノートのページが明示してある。</li> <li>○理解が難しい語句の説明等が、丁寧に掲載してある。</li> </ul>	
総 括	<p>○本冊と別冊（道徳ノート）の2冊構成である。本冊のタイトルを「見つめる」「考える」「のぼす」とし、発達段階に応じて、取り組むべき内容を示している。また、教材ごとに、問いを2～3用意している。あわせて、自分自身の問題として考えてさせる等、考えを広げる・深めるための設問を用意している。別冊の道徳ノートでは、項目ごとに、理解を深めるための文章及び詩、イラスト等が掲載してある。また、巻末に、「心に残っている授業の記録」の欄があり、1年間の学習を振り返り、もう一度自分の生き方について考える機会が与えられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">道徳 中学</h1>	233 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日 科</div>
内 容	<p>〈学習指導要領の教科の目標に関わる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に、どのような順番で学んでいけばよいかを、文章だけでなく、写真・図等を効果的に活用して説明している。また、多様な考えを知るための具体的な方策（自分の考えを持ち、積極的に発言する等）を6つ提示している。</li> <li>○巻頭に、自己肯定感を高め、前向きに生きることの大切さを示唆した詩を掲載し、積極的に道徳の授業に取り組もうとする気持ちを高めようとしている。</li> <li>○自分自身と向き合う視点の教材を、最初にまとめて配列し、意識して自己の生き方を考えるように工夫されている。</li> <li>○教材が、学習指導要領の四つの視点ごとにまとめて、配列されている。視点ごとの教材同士の関連がわかりやすくなっている。</li> <li>○教材ごとに、自分の行動等を振り返り、これからよりよく生きるために、どう行動していくかを考える問いが、用意されている。</li> </ul> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げるうえでの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ・情報モラル・環境問題等、現代的な課題についての教材を学年ごとにバランスよく取り上げ、配列している。</li> <li>○教材以外の各コーナーで、SNSの効果的な活用例や生命尊重に関係する「親子の手紙」等を扱っている。</li> </ul> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本冊のタイトルを「生き方から学ぶ」「生き方を見つめる」「生き方を創造する」とし、発達段階に応じて、取り組むべき内容を示している。</li> <li>○教材以外に、「書いてみよう」「もっと知りたい」等の名称のコーナーがあり、課題について深く考えさせる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材ごとに、「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のタイトルで、問いを2から3用意している。</li> <li>○自分自身の生活を振り返り、これからどう生きていくかを考える問いが必ず用意されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に、1年間の「心の成長」「道徳の時間」を振り返る資料が用意されている。あわせて、学習指導要領の四つの視点、内容項目と教材との関係をまとめた「学習指導要領対応表」が掲載されている。</li> <li>○巻頭に、学習の進め方をまとめた「教科書の使い方」を載せている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5版　194ページ（第1学年）</li> <li>○他の発行者の教科用図書に比べ、文字サイズが小さい。そのため、一つの教材の文字数が多くなっている。</li> <li>○理解が難しい語句の説明等が、丁寧に掲載してある。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に、道徳について、どのような順番で学んでいけばよいかを、文章だけでなく、写真・図等を効果的に活用して説明している。また、多様な考えを知るための具体的な方策を6つ提示している。教材以外に、「書いてみよう」「もっと知りたい」等の名称のコーナーがあり、課題について深く考えさせる工夫がされている。そのコーナーでは、SNSのマイナス面だけでなく、SNSが効果的に活用された例を挙げている。また、生命尊重に関係して、親子の手紙のやり取り等を扱っている。</li> </ul>	